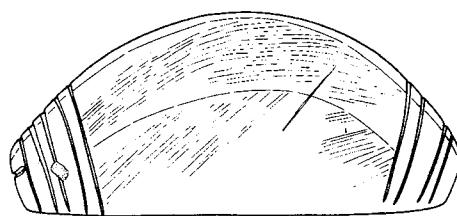


市原市文化財センター年報

平成7年度



財団法人 市原市文化財センター

序

財団法人市原市文化財センターは、昭和57年に発足以来、本年をもって満16年となります。

この間、平成2年度には新たに完成した公立の市原市埋蔵文化財調査センターに移り、組織・施設の充実を図るなかで、事業も順調に進んでまいりました。

平成7年度の発掘調査は、公共・民間合わせて21遺跡の調査を実施いたしました。その結果、縄文時代から近世に至る各種の遺構・遺物を検出し、貴重な成果と実績を得ることができました。

このうち、平成5年度に発掘調査した、大規模な弥生時代集落跡である山田橋大塚台遺跡隣接部分の山田橋大山台遺跡では、その広がりをつかむことができました。また姉崎妙経寺遺跡では、海岸部分の砂堆上から縄文時代中期の大規模な貝塚と古墳時代後期の古墳群が発見されております。

これらの成果につきましては、平成8年3月に開催いたしました遺跡発表会を通して、広く市内外の方々に公表し、理解を深めてまいりました。

今後も発掘調査や研究活動をもとにして、地域の文化財や歴史を市民の皆様にはわかりやすく、親しみやすいよう多くの資料や情報を提供していきたいと考えております。

最後に、ご指導・ご協力を賜りました千葉県教育委員会、市原市教育委員会をはじめとする関係の皆様に対し、心よりお礼申し上げます。

平成10年3月31日

財団法人 市原市文化財センター
理事長 白鳥 一夫

目 次

序

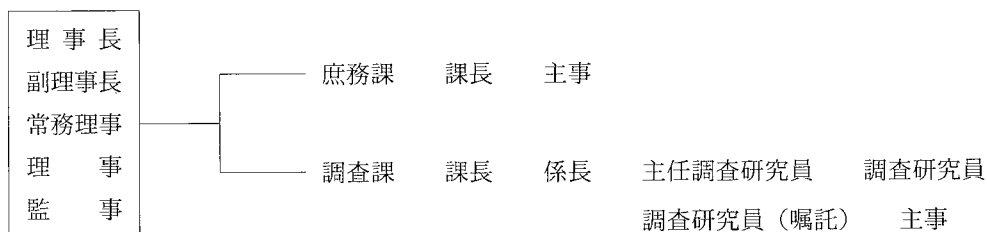
I 機 構	1
II 平成7年度の事業概要	2
III 平成7年度の調査概要	6
1. 浅井小向後谷遺跡（2次）	8
2. 白塚出戸遺跡	11
3. 村上川堀遺跡	12
4. 天羽田稻荷山遺跡	14
5. 八幡御墓堂遺跡	17
6. 椎津坂ノ上遺跡	18
7. 山田橋大山台遺跡	22
8. 潤井戸中横峰遺跡	25
9. 姉崎妙経寺遺跡	28
10. 潤井戸内野遺跡	33
11. 鶴舞子来遺跡	34
12. 上高根大作遺跡	35
13. 南岩崎仲山遺跡	36
14. 八幡市原条里制遺跡	37
15. 永吉鬼子母神遺跡	38
16. 中野寺沢台遺跡	39
17. 永吉金原遺跡	40
18. 永吉松ノ木台遺跡	42
19. 西野下田遺跡	43
20. 郡本遺跡群（古甲遺跡第4次）	44
IV 平成7年度受贈図書一覧	46

I 機 構

財団法人市原市文化財センターの機構は、役員および職員から構成されている。役員は、寄付行為の定めにより、理事長、副理事長、理事、監事をもって構成され、平成7年度の職員は、事務職員4名（うち都市公社出向職員1名）、技術職員10名（うち事務従事職員9名）であり、その組織および氏名は以下のとおりである。

1. 組 織

役 員



2. 役 員

職 名	役 職 名	氏 名	職 名	役 職 名	氏 名
理 事 長	専 任	佐野年男	理 事	市 原 市 企 画 部 長	三橋威基 7,6,15より
副理事長	市原市教育委員会生涯学習部長	山口唯一	理 事	市 原 市 総 務 部 長	加瀬睦郎 7,6,14まで
常務理事	専 任	常澄 明			田中信雄 7,6,15より
理 事	市原市教育委員会教育長	大野 皎	理 事	市原市都市計画部長	田中俊夫
理 事	國 學 院 大 學 教 授	加藤晋平	監 事	市 原 市 出 納 室 長	齋藤初男
理 事	和洋女子大学名誉教授	寺村光晴	監 事	市原市教育委員会総務課長	田邊義夫
理 事	郷 土 史 家	木村千春			

3. 職 員

所 属	職 名	氏 名	所 属	職 名	氏 名
庶務課	課 長	宮 崎 澄 夫	調 査 課	主 任 調 査 研 究 員	田 所 真
	主 事	大 鐘 光 江		調 査 研 究 員	忍 澤 成 視
	主 事	阿 部 茂 之		調 査 研 究 員	小 川 浩 一
調 査 課	課 長	米 田 耕之助		調 査 研 究 員	櫻 井 敦 史
	係 長	田 中 清 美		調 査 研 究 員 (囑託)	半 田 堅 三
	主 任 調 査 研 究 員	大 村 直 夫		主 事	高 浦 貞 子
	主 任 調 査 研 究 員	小 出 紳 夫		事 務 員 (囑託)	辻 葉 子
	主 任 調 査 研 究 員	近 藤 敏		事 務 員 (囑託)	常 澄 智 子

II 平成7年度事業概要

1. 理事会の開催

- 第1回理事会 平成7年5月25日
 議案第1号 平成6事業年度事業報告の承認について
 議案第2号 平成6事業年度収入支出決算の承認について
- 第2回理事会 平成7年11月30日
 議案第1号 平成7事業年度事業計画の変更について
 議案第2号 平成7業年度補正予算(第1号)について
- 第3回理事会 平成7年12月19日(書面表決)
 議案第1号 職員給与規程の一部を改正する規程について
- 第4回理事会 平成8年3月26日
 議案第1号 職員等安全衛生管理規程の制定について
 議案第2号 就業規則の一部を改正する規則について
 議案第3号 嘱託職員就業規則の一部を改正する規則について
 議案第4号 平成7事業年度事業計画の変更について
 議案第5号 平成7事業年度補正予算(第2号)について
 議案第6号 平成8事業年度事業計画について
 議案第7号 平成8事業年度収入支出予算について
 議案第8号 理事長の決定について
 議案第9号 常勤役員の報酬額の決定について

2. 会計監査

平成7事業年度の会計監査は、平成8年5月20日財団法人市原市文化財センター事務室において、齋藤初男、田邊義夫 監事により実施された。

3. 平成7年度受託事業

番号	事業名	委託者名	遺跡名	種別	事業内容	面積	契約年月日	受託金額 (円)
1	簡易パーキングエリア(道の駅)建設に伴う埋蔵文化財調査	市原市 (道路建設課)	浅井小向 後谷遺跡	包蔵地	確認調査	230㎡	平成7年9月14日	6,256,220
2	市道35号線改良工事に伴う埋蔵文化財調査	市原市 (道路建設課)	村上川掘 遺跡	包蔵地	確認調査 本調査	99㎡ 550㎡	平成7年11月17日	11,999,500
3 a	市道82号線改良工事に伴う埋蔵文化財調査	市原市 (道路建設課)	天羽田 稲荷山遺跡	道路跡	確認調査	156㎡	平成7年6月15日	2,660,490
3 b	市道82号線改良工事に伴う埋蔵文化財調査	市原市 (道路建設課)	天羽田 稲荷山遺跡	道路跡	本調査	950㎡	平成7年12月19日	14,480,770

番号	事業名	委託者名	遺跡名	種別	事業内容	面積	契約年月日	受託金額 (円)
4	市道153号線改良工事に伴う埋蔵文化財調査	市原市 (道路建設課)	椎津坂ノ上遺跡	包蔵地 道路跡	本調査	2,000㎡	平成7年8月15日	9,999,240
5	総合防災センター建設に伴う埋蔵文化財調査	市原市 (消防局)	山田橋 大山台遺跡	集落跡	本調査	6,170㎡	平成7年4月1日	39,999,020
6 a	都市計画道路押沼安須線建設工事に伴う埋蔵文化財調査	市原市 (街路課)	潤井戸 中横峰遺跡	道路跡 塚	確認調査	250㎡	平成7年4月27日	4,621,610
6 b	都市計画道路押沼安須線建設工事に伴う埋蔵文化財調査	市原市 (街路課)	潤井戸 中横峰遺跡	道路跡 塚	本調査	900㎡	平成7年6月16日	9,095,930
7	都市計画道路八幡椎津線建設工事に伴う埋蔵文化財調査	市原市 (街路課)	白塚出戸 遺跡	包蔵地	確認調査	260㎡	平成7年5月10日	2,895,330
8	八幡宿駅東口土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査	市原市 (八幡宿建設課)	八幡御墓堂 遺跡	溝跡	確認調査	154.2㎡	平成7年4月1日	5,736,070
9 a	姉崎駅前土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査	市原市 (姉崎建設課)	姉崎 妙経寺遺跡	貝塚	確認調査	220㎡	平成7年4月1日	8,804,440
9 b	姉崎駅前土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査	市原市 (姉崎建設課)	姉崎 妙経寺遺跡	貝塚 古墳	確認調査 本調査	260㎡ 1,120㎡	平成7年9月19日	19,195,080
10	市内遺跡発掘調査	市原市 (ふるさと文化課)	市内遺跡	包蔵地	確認調査 本調査 整理	370㎡ 581㎡	平成7年7月7日	13,045,200
11	国分寺台遺跡群発掘調査整理報告事業(根田祇園原貝塚)	市原市 (ふるさと文化課)	根田祇園原 貝塚	貝塚	整理		平成7年4月1日	34,951,220
12	(仮称)後樂園市原レクリエーションワールド建設に伴う埋蔵文化財調査	㈱東京ドーム	荻原野 遺跡	包蔵地	整理		平成5年11月12日 (8年度まで継続)	7,427,330 (総事業費 115,376,480円)
13	マンション建設に伴う埋蔵文化財調査(整理)	㈱ダイア建設	六孫王原 遺跡	集落跡	整理		平成6年8月31日 (8年度まで継続)	7,066,830 (総事業費 21,112,940円)
14	市原市市東第一土地区画整理事業(第2地点)に伴う埋蔵文化財調査	市原市市東第一土地区画整理組合設立準備委員会	永吉鬼子 母神遺跡	集落跡	確認調査	495.5㎡	平成7年5月25日	7,313,000
15	市原市市東第一土地区画整理事業(第6地点)に伴う埋蔵文化財調査	市原市市東第一土地区画整理組合設立準備委員会	中野寺沢台 遺跡	集落跡	確認調査	1,947㎡	平成7年7月10日	14,401,460
16	市原市市東第一土地区画整理事業(第1地点その2)に伴う埋蔵文化財調査	市原市市東第一土地区画整理組合設立準備委員会	永吉金原 遺跡	集落跡	確認調査	862㎡	平成8年1月31日	7,842,420
17	市原市市東第一土地区画整理事業(第1地点その3)に伴う埋蔵文化財調査	市原市市東第一土地区画整理組合設立準備委員会	永吉松ノ木台 遺跡	集落跡 古墳	確認調査	2,469㎡	平成7年11月30日	24,095,820
18	上総国府推定地確認調査	市原市 (ふるさと文化課)	郡本遺跡群 (古甲遺跡4次)	国府 推定地	確認調査	130㎡	平成8年3月1日	2,998,330
19	店舗建設に伴う埋蔵文化財調査	丸広米穀株式会社	西野下田 遺跡	包蔵地	本調査	355㎡	平成7年11月30日	3,274,370
合計								258,159,680

4. 研究事業

調査事業、整理事業に係わる日常の研究活動、職員の資質向上を目指す研修を行っている。

(1) 外部主催研修会等

① 全国埋蔵文化財法人連絡協議会関係

- ア. 総 会 平成7年6月8～9日 愛知県名古屋市
- イ. 研 修 会 平成7年8月9～11日 高知県高知市
- ウ. 関東ブロック法人連絡協議会 平成7年6月22～23日 栃木県藤原町
平成7年11月1～2日 東京都港区
- エ. コンピューター等研究委員会関東ブロック地区委員会
平成7年10月5～6日 埼玉県熊谷市

② 千葉県文化財法人連絡協議会関係

- ア. 総 会 平成7年6月28日 千葉市中央区（ちば共済会館）
- イ. 役 員 会 平成8年3月13日 財団法人千葉県文化財センター
- ウ. 部 会 事務部会 2回 技術部会 8回
- エ. 研 修 会 共同研修会 1回 事務研修会 2回 技術研修会 1回

③ 海外研修会 平成7年10月12～16日 韓国

(2) 内部研修会

- ① 補助員研修会 平成7年6月6日 県立大根博物館・佐原市立水生植物園
- ② 職員研修会 平成7年12月12日 東京都足立区立郷土博物館
柴又八幡神社古墳・柴又題経寺
市川国府台遺跡

5. 普及事業

(1) 千葉県文化財法人連絡協議会

遺跡調査研究発表会

平成8年1月28日（日） 於 千葉市文化センター

(2) 遺跡発表会

平成8年3月17日（日） 於 市原市五井会館

調査遺跡の成果報告

- ① 山田橋大山台遺跡 ② 姉崎妙経寺遺跡 ③ 村上川堀遺跡 ④ 郡本遺跡群

特別講演

- ① 低湿地遺跡を掘る 財団法人長生郡市文化財センター
調査研究員 菅谷 通保
- ② 大昔の自然環境を考える -市原の植生史-
国立歴史民俗博物館 助教授 辻 誠一郎

6. 印刷物の刊行

「市原市文化財センター年報（平成3年度、平成4年度）」、研究紀要Ⅲ

7. 平成7年度決算報告

平成7年4月1日から
平成8年3月31日まで

収入の部

(単位：円)

科 目	予 算 額			決 算 額	差 異	備 考
	当初予算額	補正予算額	合 計			
基本財産運用収入	160,000	△ 53,000	107,000	107,957	△ 957	
事 業 収 入	263,679,000	△ 3,233,000	260,446,000	259,481,020	964,980	
雑 収 入	2,601,000	△ 1,583,000	1,018,000	1,076,862	△ 58,862	
当期収入合計	266,440,000	△ 4,869,000	261,571,000	260,665,839	905,161	
前期繰越収支差額	44,717,000	2,230,000	46,947,000	46,947,649	△ 649	
収 入 合 計	311,157,000	△ 2,639,000	308,518,000	307,613,488	904,512	

支出の部

(単位：円)

科 目	予 算 額			決 算 額	差 異	備 考
	当初予算額	補正予算額	合 計			
受 託 事 業 費	232,659,000	△ 4,241,000	228,418,000	227,575,118	842,882	
研究普及事業費	5,821,000	5,000	5,826,000	5,753,836	72,164	
一 般 管 理 費	19,237,000	474,000	19,711,000	19,407,450	303,550	
消 費 税 支 出	3,100,000	0	3,100,000	3,023,000	77,000	
固定資産取得支出	300,000	0	300,000	297,258	2,742	
財政調整基金積立預金支出	600,000	△ 300,000	300,000	299,877	123	
退職給与引当預金支出	900,000	△ 90,000	810,000	810,000	0	
予 備 費	2,000,000	△ 1,900,000	100,000	0	100,000	
当期支出合計	264,617,000	△ 6,052,000	258,565,000	257,166,539	1,398,461	
当期収支差額	1,823,000	1,183,000	3,006,000	3,499,300	△ 493,300	
次期繰越収支差額	46,540,000	3,413,000	49,953,000	50,446,949	△ 493,949	

Ⅲ 平成7年度調査概要

平成7年度の発掘調査は、確認調査11事業、確認調査～本調査2事業、本調査5事業、計18事業21遺跡を対象に実施した。

調査の対象となった遺跡から検出された遺構や遺物は、旧石器時代から中近世にわたっているが、今年度は古代から中近世にかけての遺構の検出が中心であった。

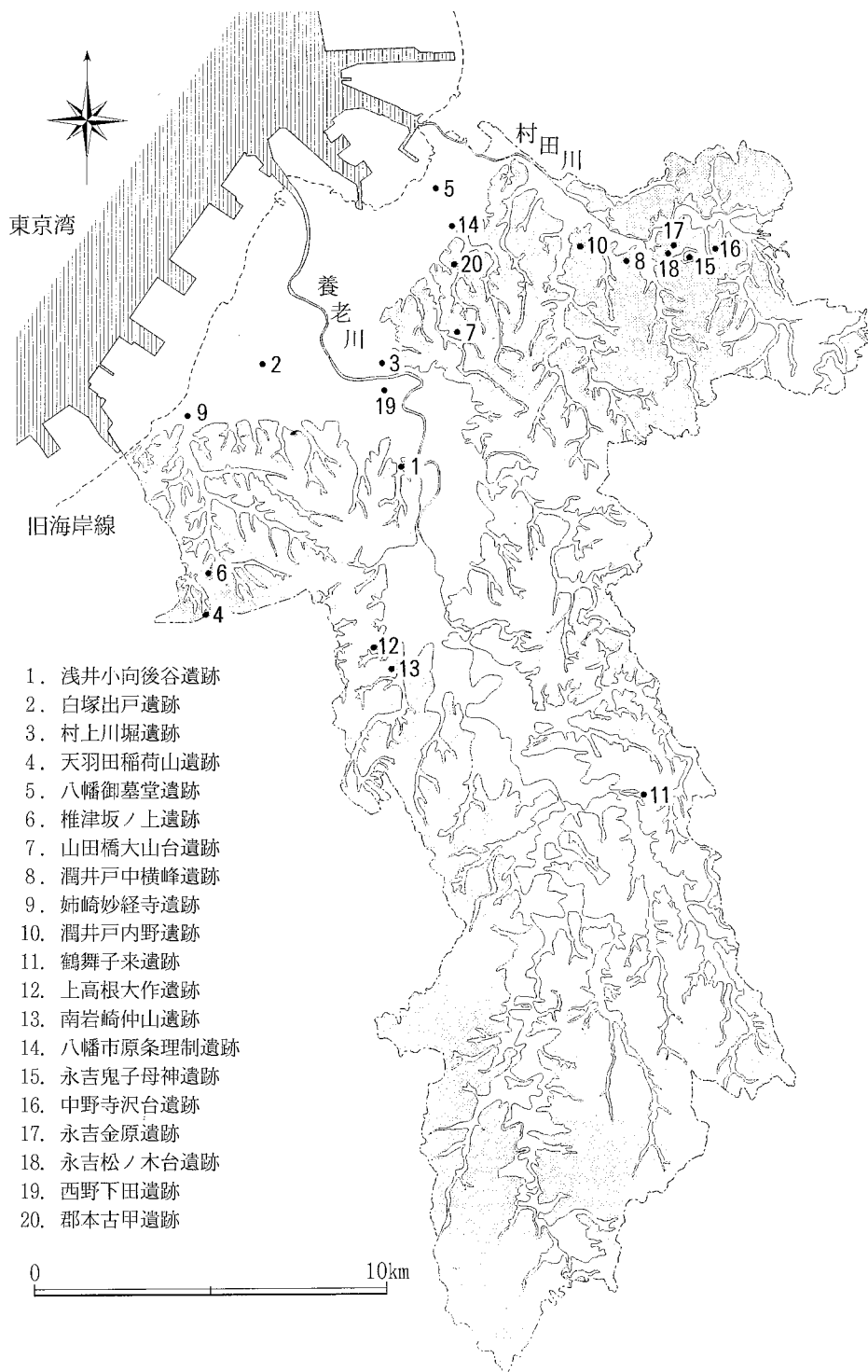
上記の遺跡のうち、山田橋大山台遺跡は、平成6年度に確認調査を行い、弥生時代後期の大規模な集落の存在が想定された遺跡である。調査の結果、縄文時代中期から奈良時代にいたる竪穴住居跡41軒、弥生時代後期の木棺直葬土壙墓3基、古墳時代後期の円墳1基などが検出された。集落の主体は弥生時代後期で、同一台地上に位置する昭和62年度及び平成5年度に発掘調査が行われた山田橋表通遺跡や山田橋大塚台遺跡でも当該期の竪穴住居跡が多数検出されており、かなりの広がりが見込まれる。また、中心的な施設と考えられる大形竪穴住居の存在や銅製指輪の検出などから、この付近の拠点的な集落となる可能性が考えられる。

姉崎妙経寺遺跡は、海岸線に沿った標高6～7mの砂堆上に位置し、縄文時代中期の大規模な貝塚や古墳時代後期の円墳4基などが調査されている。貝塚は、砂堆の斜面部に厚さ120cm程、長さ約100mで弧状を呈して確認されている。従来、低地に所在する貝塚は台地上の集落に付属する作業場的な様相が強かったが、本遺跡の貝層中には、土器や石器などの人工遺物や魚骨・獣骨など多くの遺物が検出されており、台地上の貝塚とほとんど変わらない状況を示している。このことは、付近に比較的規模の大きな集落が形成されていることを想定させるものであろう。また古墳は、周溝のみの調査となったが、かなり集中して築造されている状況が伺える。姉崎二子塚古墳を中心とする姉崎古墳群に含まれると考えられる。

奈良・平安時代としては、石製の丸竈や多くの土器が出土した土坑や掘立柱建物3棟が調査された村上川掘遺跡、当該期と思われる両側溝を有する幅9m前後の計画道路を検出した椎津坂ノ上遺跡などが注目される。また、上総国府推定地の確認調査では、古甲遺跡130㎡を調査し、掘立柱建物1棟と奈良時代から平安時代にかけての竪穴住居3軒などを検出した。

中近世の遺跡としては、道路遺構3条、土坑1基、ピットなどが検出された天羽田稲荷山遺跡が興味深い。道路遺構には、推定「鎌倉街道」が含まれており、道路底面から出土した陶器より戦国時代にはすでに使用されていたことが伺える。幅3m前後と規模は小さいが、度々改修を加えて現代まで利用されていたようである。八幡御墓堂遺跡では、戦国時代の土坑から緑泥片岩の板碑片が出土した。また、潤井戸中横峰遺跡では、中世の道路遺構2条と近世の塚2基などを調査している。

以上の他に、平成6年度より開始した根田祇園原貝塚の整理事業などを継続して実施している。



第1図 平成7年度調査遺跡位置図

あさ い こ むかいうしろ やつ 1. 浅井小向後谷遺跡（2次）

事業名 簡易パーキングエリア（道の駅）建設に伴う埋蔵文化財調査

所在地 市原市浅井小向492番地 他

調査期間 平成7年10月2日～平成7年10月31日

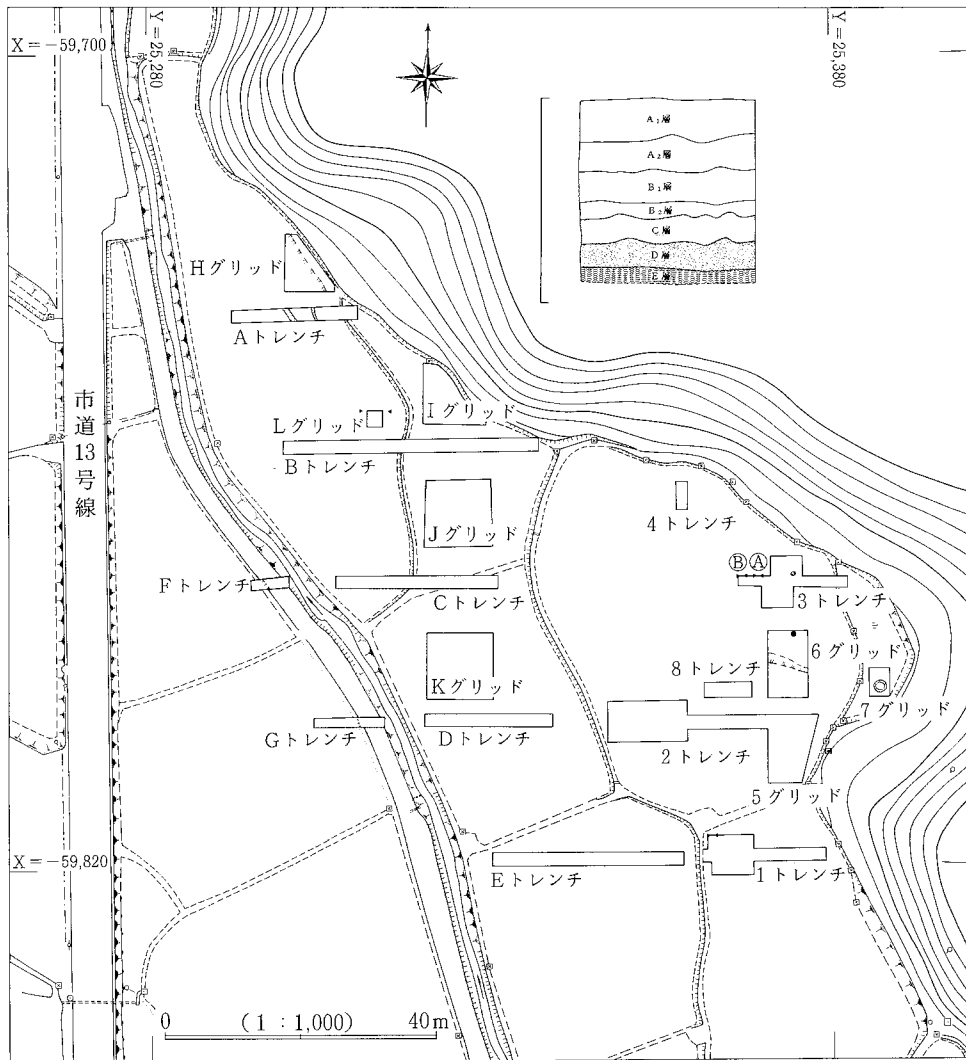
調査面積 2,300㎡のうち230㎡（確認調査）

調査概要 浅井小向後谷遺跡（2次）は、簡易パーキングエリア（道の駅）建設に伴い、発掘調査が行われた。本遺跡は、養老川下流域の支流によって形成された標高17m前後の沖積低地に位置する。北東側に隣接する台地上には、弥生時代から平安時代にかけての集落跡が検出された釜神遺跡が存在し、なだらかな緩斜面を経て、谷津状になった湿地を形成している本遺跡は、釜神遺跡を構成する集落の生産遺跡として、水田や水汲み場等の遺構が存在している可能性が高いと考えられた。

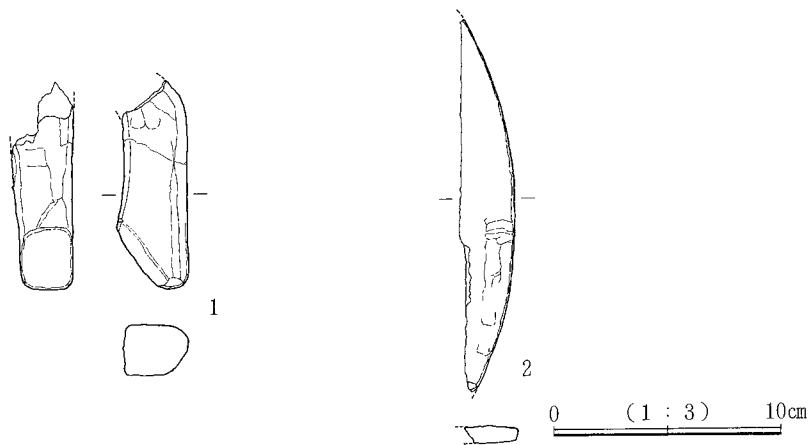
調査対象面積は2,300㎡であり、このうちの10%にあたる230㎡について、トレンチ及びグリッドを設定し、前回〔浅井小向後谷遺跡（1次）〕において把握された基本層序と比較・検討を行いながら調査を進めた。また、各土層におけるプラント＝オパール分析をはじめとした土壤の



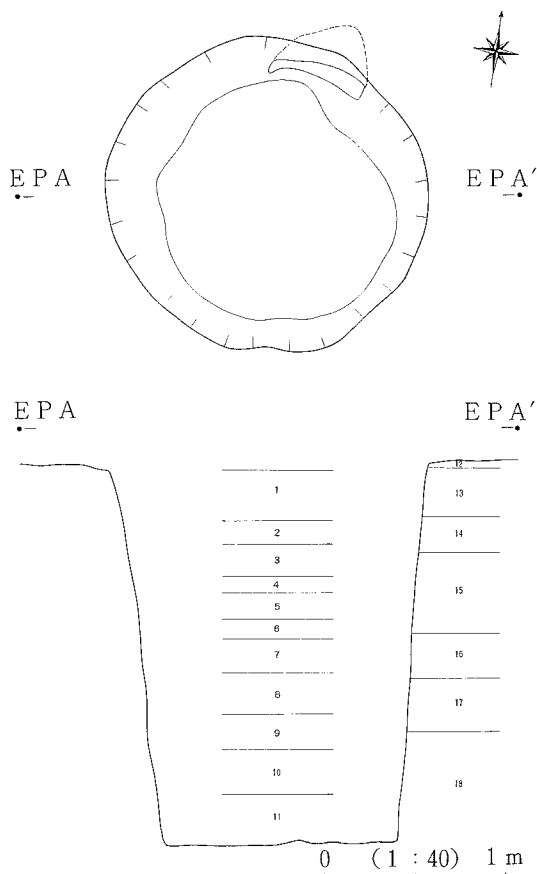
第1図 浅井小向後谷遺跡の位置（1：8,000）



第2図 浅井小向後谷遺跡（1次）（2次）トレンチ、グリッド配置図



第3図 浅井小向後谷遺跡（2次）出土木製品実測図



1. 暗褐色粘質土、腐食土多く混入する。
2. 暗青灰色シルト質砂、腐食土均等に混入する。
3. 暗褐色粘質土、腐食土主体。マツ属の葉が殆ど分解せずに多量に堆積。木片も混入。
4. 暗青灰色砂、2より黒色味強い。マツ・クヌギ等の遺存体混入している。
5. 暗黒灰色粘質土、腐食土主体。3より砂の混入が多い。
6. 暗黒灰色砂、4より黒色味強く、腐食土も多く混入する。
7. 暗黒色粘質土、砂（青灰色）均等に散る。
8. 暗黒色粘質土、腐食土主体。マツ属等の葉が多量に堆積。
9. 暗青灰色シルト質砂、黒色粘質土も混入する。
10. 暗黒褐色粘質土、黒色味の強いシルト質砂も多く混入する。
11. 暗黒色砂質土、シルトより粗い砂の混入が多く、しまっている。
12. 暗黒灰色粘質土、13よりやや粒子粗い、酸化鉄ブロックの混入がある。
13. 暗黒灰色粘質土、青灰色シルト少量混入する。14より粘質が強くなり、粒子が細かい。
14. 暗青灰色シルト質粘質土、暗黒色粘質土が混入する。5mm大の褐色斑（酸化鉄）均等に散る。
15. 暗黒褐色シルト質砂、洪水等で攪拌されているような状況を呈す。
16. 暗黒色シルト、マンガン班少量混入する。
17. 暗黒灰色砂質性シルト、青灰色砂入り込む。
18. 暗黒褐色砂層、黒色粘質土入り込む。

第4図 7グリッドSE-01平面図、エレベーション図及び断面図

自然科学分析をパリノ＝サーヴェイ株式会社に委託し、各土層中における稲作水田等、生産遺跡の存在や、当時の植生変遷についての科学的分析を試みた。調査の結果、遺構としては3トレンチにおいて近世に比定される鎌柄と考えられる木製品（第3図-1）を検出した土坑及び、7グリッドでは、マツ属の植物遺存体を多量に含む中近世と考えられるSE-01（第4図）が検出された。また、6グリッドC層中において、近世と考えられる曲物底板（第3図-2）が検出されている。また、水田に伴う畦畔・水口といった遺構は確認できなかったものの、分析の結果、弥生時代～古代に推定されるD層において、谷津内での稲作の可能性が指摘された。また、C層（古代末～近世）において、二次林であるマツの増加が指摘され、辻誠一郎らが指摘している関東を例にあげた、当該期のマツ林の急激な増加という周囲の植生変遷が当地域でも立証されたことになる。このことは、今回行った自然科学分析の大きな成果であると考えられる。なお、当遺跡の詳細な自然科学分析については、時期を改めて報告したい。（小川浩一）

（参考文献） 辻誠一郎. 1989. 「植物と気候」『弥生文化の研究1』 弥生人とその環境. P. 170-172.

山田昌久. 1995. 「日本における13～19世紀の気候変化と野生植物利用の関係」『植生史研究第3巻-第1号』P. 3-14.

2. 白塚出途遺跡

事業名 都市計画道路八幡椎津線建設工事に伴う埋蔵文化財調査

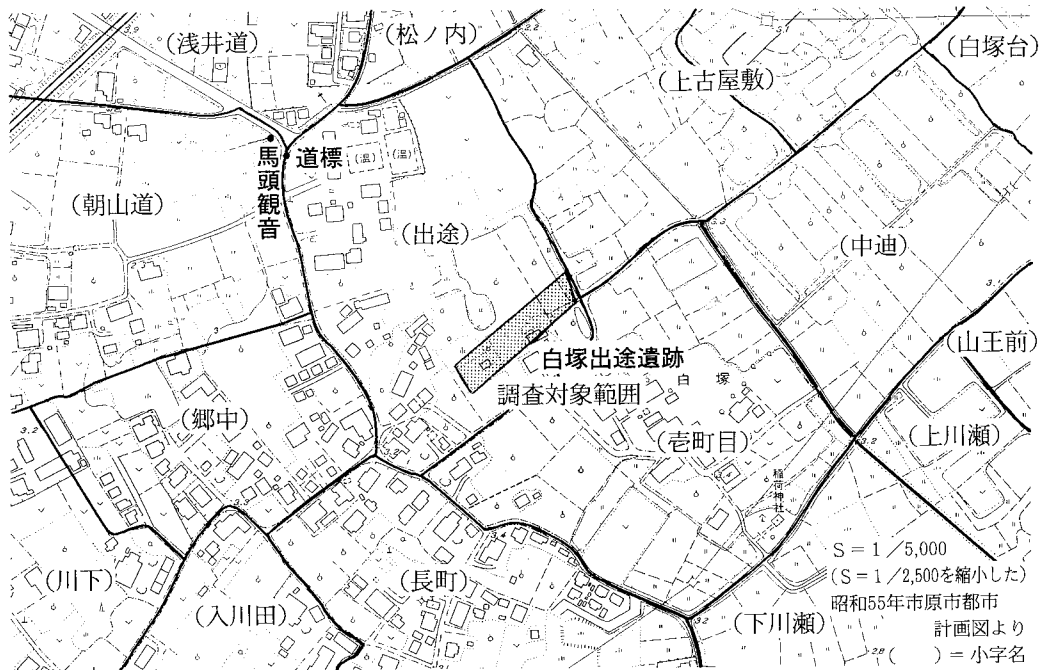
所在地 市原市白塚251-5 他

調査期間 平成7年5月22日～平成7年6月8日

調査面積 2,600㎡のうち260㎡（確認調査）

調査概要 白塚出途遺跡の調査は、都市計画道路八幡椎津線建設に先立って実施した確認調査である。遺跡は、東京湾の旧汀線より1.2km程東に入った標高3m前後の微高地（自然堤防）上に立地している。遺跡の南250m辺りを西から東へ流れる今津川は、現在今津朝山で東京湾に至っているが、旧河道の痕跡が大字白塚を取り巻く様に北上しており、一旦青柳に至ってから、大岸で海にそそいでいたことを物語っている。青柳～大岸間には、現在も小河川「前川」が流れる。白塚字五十目付近で短絡している。短絡の時期は明らかではない。但し、字五十目の周辺には、朝山道・浅井道・道面と言った小字名が残っており、海岸線における古代東海道推定ルートである姉崎大道～島野大街道ルート上ほぼ中央に位置している点で興味深い。

白塚出途遺跡は、小字朝山道の東側で接している。調査は幅約2mのトレンチを10ヶ所分散的に入れて行った。確認された遺構は、近世の性格不明遺構1基のみであった。出土遺物としては、近世陶磁器・寛永通宝・煙管などが見られている。（田所 真）



白塚出途遺跡の調査対象範囲と周囲の地形

3. 村上川堀遺跡

事業名 市道35号線建設工事に伴う埋蔵文化財調査

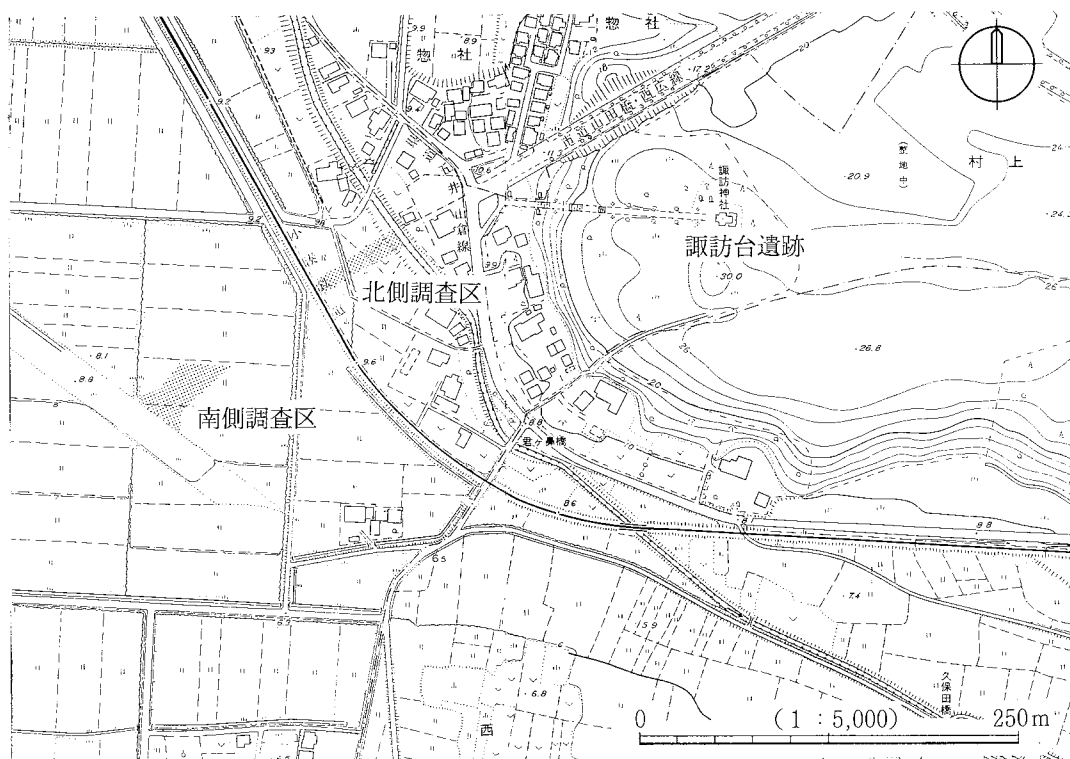
所在地 市原市村上字川堀1,626地先 他

調査期間 平成7年11月20日～平成8年2月5日

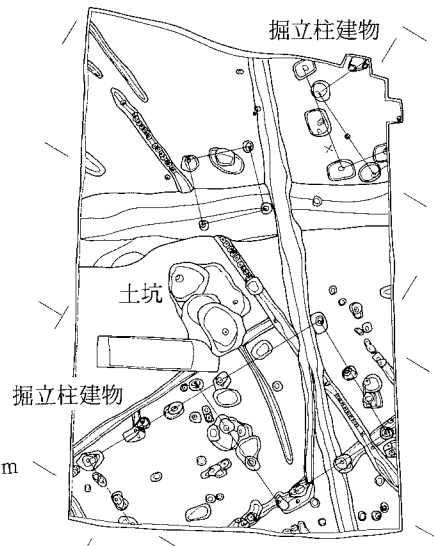
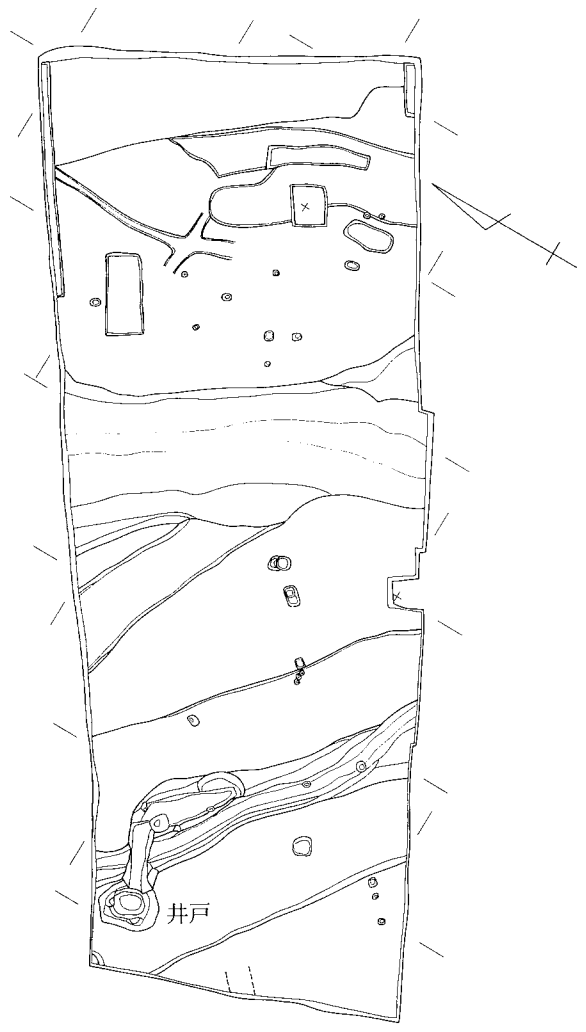
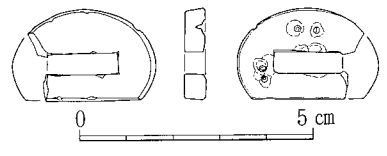
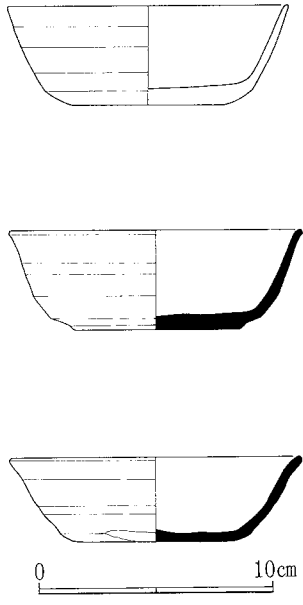
調査面積 990㎡のうち99㎡（確認調査） 550㎡（本調査）

調査概要 村上川堀遺跡は、市道35号線建設工事に伴い、発掘調査が行われた。本遺跡は、養老川流域の西岸にある氾濫原にともなう標高約8～9mの微高地上に位置する。北側調査区550㎡について本調査が行われ、南側調査区990㎡については、その10%にあたる99㎡のトレンチを設定することにより、調査を行った。この結果、北側調査区においては、石製の丸柄及び土器が集中して検出された奈良時代土坑1基や、平安時代掘立柱建物跡3棟・溝5条、また、雨落ち溝に区画された中央に棟持ち柱を持つと考えられる中近世の掘立柱建物跡1棟、同じく中近世の井戸状遺構1基・溝6条・土坑7基が検出され、南側調査区では、平安時代の溝1条及び土坑1基が確認されている。なお、本遺跡の詳細については、下記文献によりたい。

「村上川堀遺跡」『第11回市原市文化財センター遺跡発表会要旨』 1996 (小川浩一)



第1図 村上川堀遺跡位置図



第2図 村上川堀遺跡北側調査区全体図 (1/250)

4. 天^あ羽^{もう}田^だ稲^{いな}荷^り山^{やま}遺跡

事業名 市道82号線改良工事に伴う埋蔵文化財調査

所在地 市原市天羽田字稲荷山347-2 他

調査期間 平成7年6月22日～平成7年7月3日（確認調査）

平成8年1月5日～平成8年3月15日（本調査）

調査面積 1,560㎡のうち156㎡（確認調査） 950㎡（本調査）

調査概要 遺跡は養老川・小櫃川流域間の台地上にあり、袖ヶ浦市との行政境に位置する。木更津から上総国府に抜ける「鎌倉街道」推定路線の一地点で、「市」の展開が想定される袖ヶ浦市山谷遺跡と同ルートである。

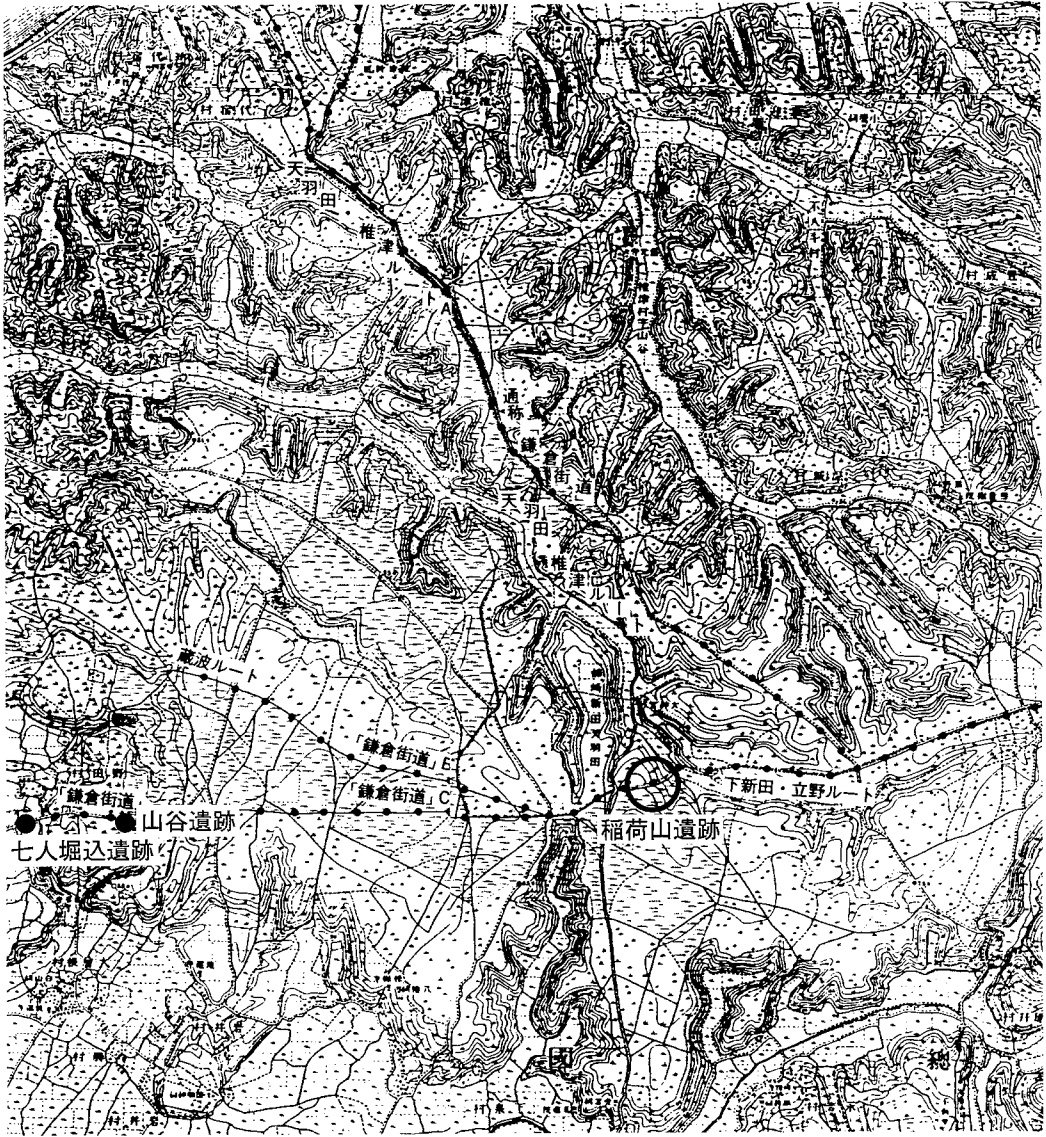
調査は現道を掘削して行われ、道路遺構3条・土坑1基・ピットなどが検出された。中世まで遡る道路遺構は、「鎌倉街道」推定遺構を含め2条である。

「鎌倉街道」推定遺構は、戦国期から現代に至るまで使用された道跡である。堀方上端幅3m前後の規模で、谷底に向かう傾斜面を緩やかに蛇行する。度々整備がなされており、近世を含め大別Ⅳ期の改修跡がある。各期ごとに路床位置が若干異なり、数条の硬化面として検出された。遺構断面は漏斗状を呈し、底の凹部（幅40～50cm）に褐色土を張り、固く踏みしめて路床としている。このため実際機能上の断面は緩やかなU字状である。路面として各期ある程度の幅が確保できそうに思えるが、幅40～50cm前後の路床硬化面が底に認められるにすぎない。状況から車による荷物運搬は不可能であったと思われ、轍跡もない。雨天時には水が流れ滑りやすく、歩行に適さない。斜面の蛇行もこれに対する処置の可能性がある。なお、調査区最西部で並走する溝状遺構が検出された。先述の道路遺構に先行するため大半が破壊され、詳細は明らかにできなかった。側溝状を呈することから、第Ⅰ期以前の道跡の可能性はある。

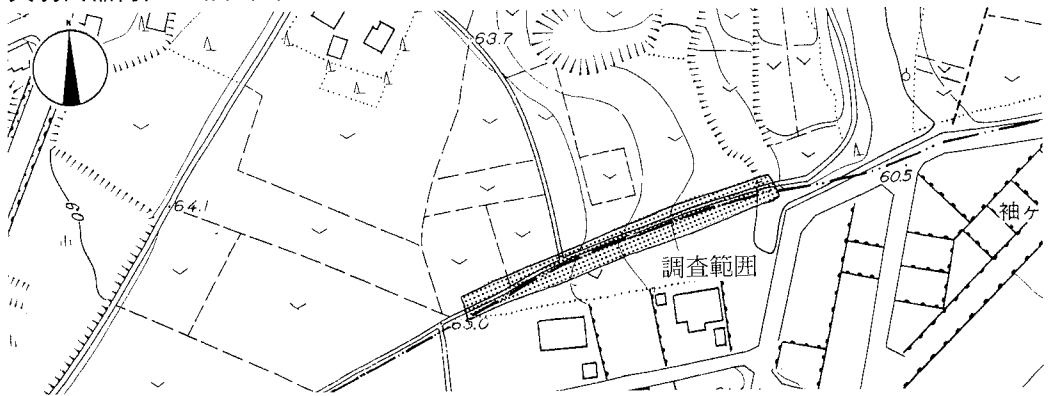
遺跡全体に遺物量は希薄で、明確な推移を捉え難い。第Ⅲ期は宝永4（1707）年の富士山火山灰層直下で、中世輸入銭および大窯Ⅳ期の瀬戸・美濃産播鉢片を包含しており、戦国末期から宝永4年までの機能と言える。第Ⅰ期の路床から大窯初期の瀬戸・美濃産陶器が出土しており、Ⅰ期からⅢ期を通じ戦国時代の遺構と考えられる。

稲荷山遺跡は、流域文化圏を挟む山越えの部分、かつ郡境という辺境地帯で、周辺に集落遺構を伴う山谷遺跡などの「鎌倉街道」推定遺構と比べ規模も小さい。中世においては荒涼とした未開地に道だけが延びる景観であったと思われる。いわゆる鎌倉街道が、その地域状況により、規模・構造を異にする事例と捉えることも可能である。ただし、今回調査対象とした遺構の覆土としては、その範囲における限り戦国期以降の堆積で、これ以前の古道の状況を把握することはできない。旧来の鎌倉街道が今回の調査範囲から外れている可能性もあり、慎重な検討を要する。今後調査事例の蓄積に期待したい。

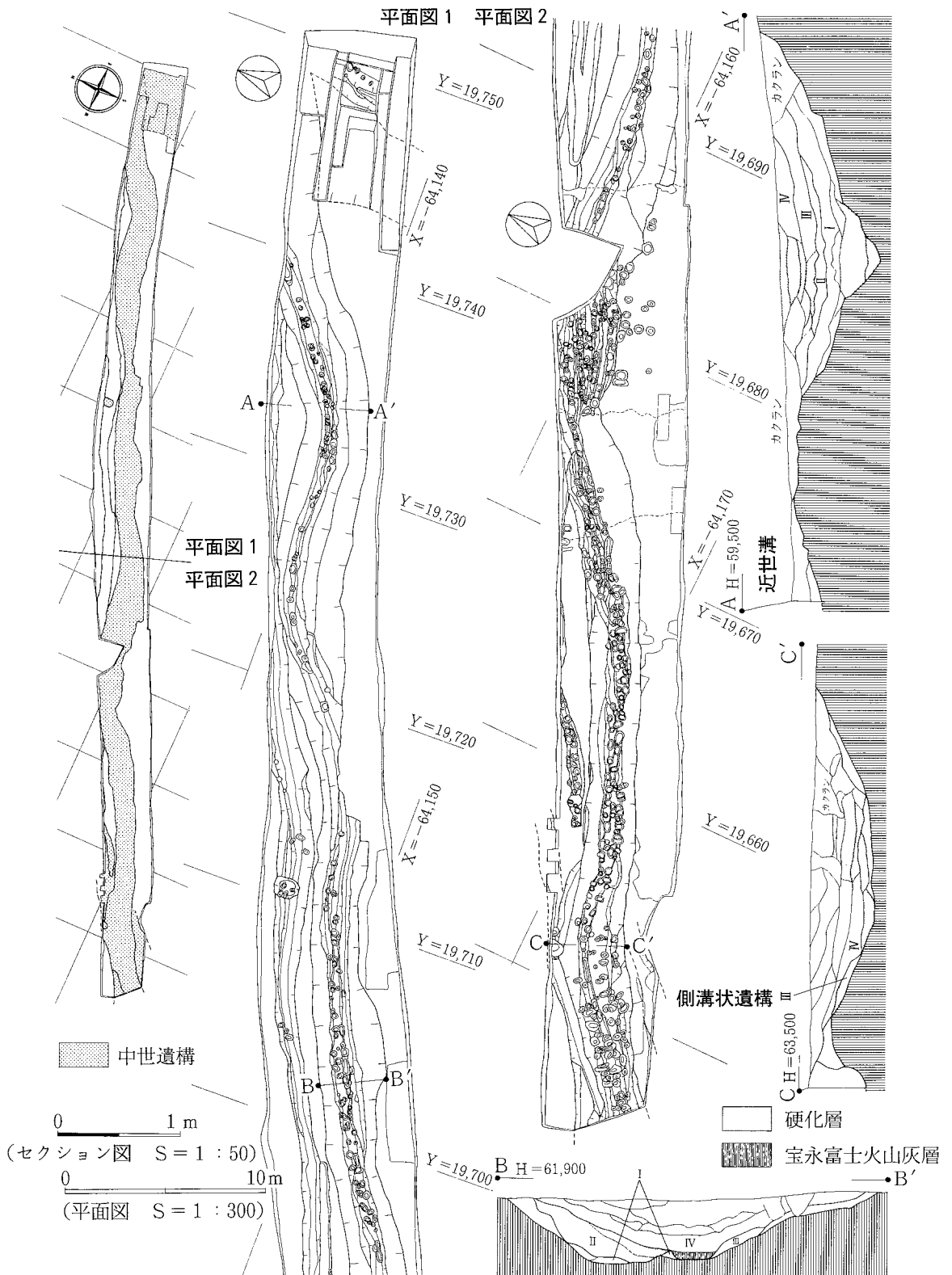
（櫻井淳史）



天羽田稲荷山遺跡位置図 (1/40,000) 千葉県文化財センター研究連絡誌41、大谷弘幸氏論文より



天羽田稲荷山遺跡周辺地形図 (1/2,500)



天羽田稻荷山遺跡遺構平面図

5. やわたみはかどう 八幡御墓堂遺跡

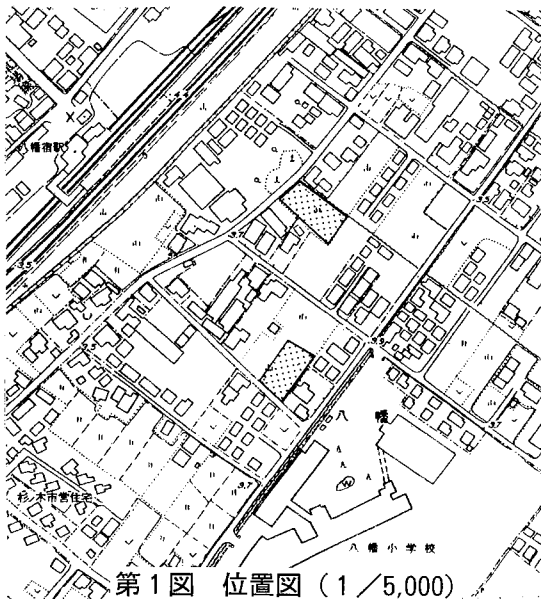
事業名 八幡宿駅東口土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査

所在地 市原市八幡字御墓堂前816-1 他

調査期間 平成7年4月11日～平成7年5月8日

調査面積 1,542㎡のうち154.2㎡（確認調査）

調査概要 当遺跡は東京湾東岸の海岸砂丘上に立地し、標高は4m弱である。調査は、北側（面積830㎡）と南側（面積712㎡）の2地点を対象に10%の確認トレンチを設定した。トレンチは、土盛や排水などの関係で不規則に配置せざるを得なかった。北側調査区の道を狭んで西側の隣接地は墓地となっており、元は霊応寺という寺院が存在していたと伝えられる。墓地内

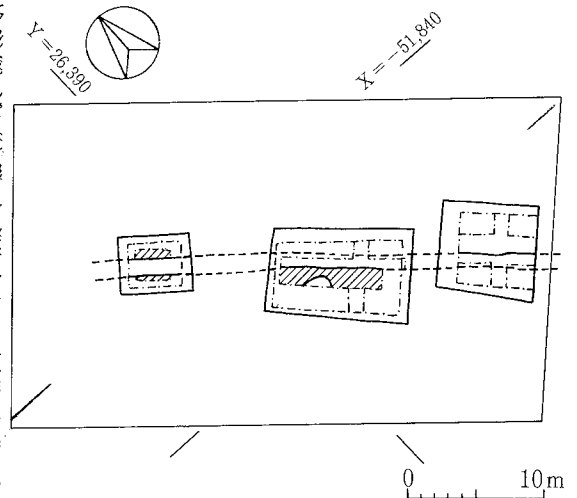


第1図 位置図 (1/5,000)

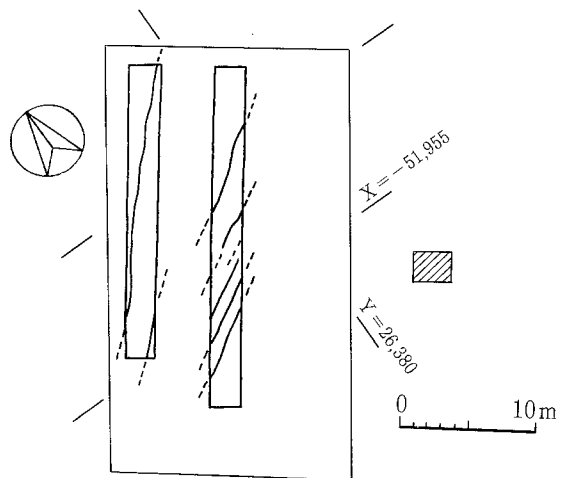
には、中世の五輪塔が数基残存している。調査の結果、表土下約2mより、溝1条、土坑1基、硬質面2ヶ所が認められた。土坑からは、緑泥片岩の板碑片が出土した。南側調査区では、表土下約1.2mから、溝5条以上が重複して検出された。これらのうち、北側調査区の硬質面と土坑は、出土した遺物から戦国時代^{注1}の所産と考えられる。その他の溝などの遺構は、近世以降とみられる。

注1 櫻井淳史氏ご教示

(田中清美)



第2図 調査全体図(1) 北側調査区



第3図 調査全体図(2) 南側調査区

6. 椎津坂ノ上遺跡

事業名 市道153号線改良工事に伴う埋蔵文化調査

所在地 市原市椎津2,967番地先

調査期間 平成7年8月16日～平成7年11月8日

調査面積 2,000㎡（本調査）

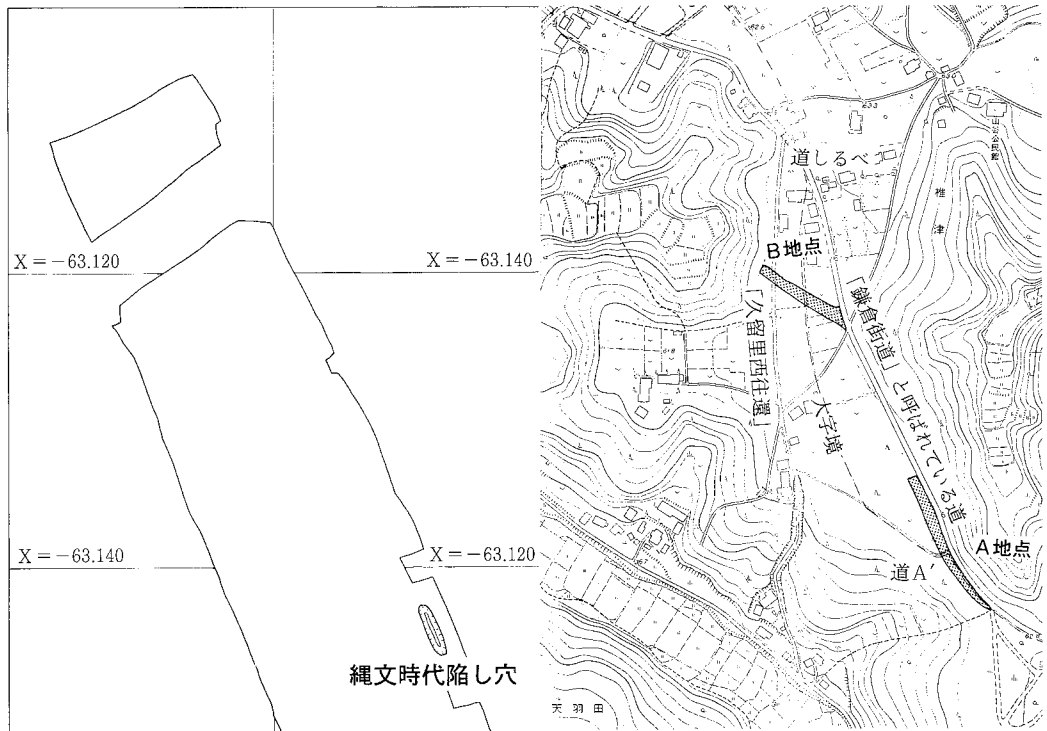
調査概要 椎津坂ノ上遺跡は、標高62m前後の台地上に立地している。調査は、市道153号線改良工事に先立って実施した本調査であり、平成5年度の確認調査結果を受けて定められた範囲を対象として実施している。

本調査の対象となった地点は、第1図に示した2地点であり、南側をA地点、北側をB地点とした。以下、地点ごとに調査の概要を述べたい。

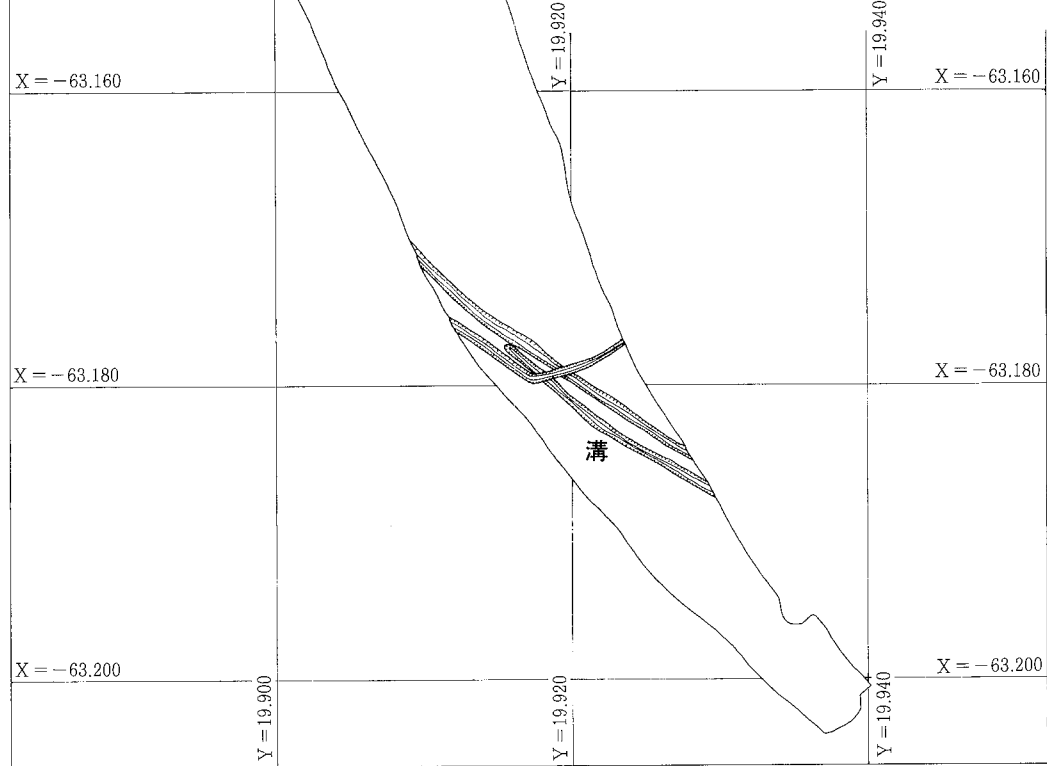
A地点の調査では、調査区中央やや北寄り東端において、台地縁辺に平行する向きで、縄文時代の陥し穴遺構1基を検出した。また、調査区南半で近世以降の溝3条を調査している。いづれも共伴する遺物を見ない。但し、陥し穴については、周囲の一括資料中に前期が認められることから、当該期の所産である可能性が考えられる。近世以降の溝のうち、北西～南東の向きを有する2条は、埋土が踏み締められている。道路の轍の跡と推測される。中央部で西北西に屈曲する溝は、前述2条の溝より新しいことが明らかである。道路廃絶後に、何らかの施設を区画する意図で掘られたものであろう。現段階で最も可能性の高いものは、「馬頭観音」の祀の区画溝と見るものである。但し、「馬頭観音」の区画溝とした場合、北側の区画が検出されておらず、若干の問題を残している。第1図によると、椎津と天羽田との大字境に平行して走る小径（図中 道A）が、この溝とほぼ重なる位置を通して現道に連絡している。関連性も含めて、今後の資料整理に期待したい。本遺構の底面には、硬化面が認められなかったことを附言しておきたい。

B地点の調査では、縄文時代の炉穴4基と、古代以後に使用された溝状遺構3条を検出した。また、確認調査の段階において確認されていた調査区東北端の土塁については、江戸中期頃以降の屋敷跡に関係する北側風避けの為の土塁であることが明らかとなった。尚、この土塁の内側（西側）には、小規模な焼成遺構が附設されており、鉄釘と寛永通宝とが共伴していた。土塁の外側には、幅員1m程度の溝が併設されていた可能性がある。この溝の埋没最終段階において廃棄された資料の中に、近世～近代の資料が含まれている。地元の聞き取り調査でも、当該地に居宅の所在していたことが知られている。昭和初頭には、既に居宅が廃絶されているようである。従って、これらのことから「土塁」の使用下限を近代と見ることができよう。

B地点の炉穴4基のうち、溝状遺構西側で検出されたものは、確認調査の段階で炉底に遺物



第1図 椎津坂ノ上遺跡の位置と周囲の地形



第2図 坂ノ上遺跡A地点の遺構配置

が出土しており、前期の所産であることが明らかである。他の炉穴については、共伴する遺物が見られていないが、今回の調査で出土している縄文土器の様相が、ほぼこの時期のものに限定されているので、同様の時期の炉穴と考えて良いであろう。

調査区のほぼ中央で南北に検出された溝状遺構3条については、覆土中に遺物の出土が認められていない。従って、これらの溝が古代に使用されたものであるとする直接的な証拠は、今回の調査からは得られなかった。

東端の溝については、やや東側に膨れぎみに弧を描いており、西側の直線的な溝よりも新しいものであることが切り合い関係から明らかとなっている。単独の溝と理解され、使用後は人為的に埋め戻された可能性が高い。上層面を道路として使用しており、硬化面が観察された。

しかし、西側の2条の溝については①規模や断面形態において近似しており、②直線的で、③溝の振れがほぼ等しく、平行関係にあることが指摘できる。従って、この2条は同時期に對を成して穿たれたものと考えられる。更に、④最も西側の溝は、大字境（天羽田～椎津）に一致していることが指摘できる。また、⑤大字境の溝と東側の溝との直線距離は、溝底部芯々間で9 m 68cm（溝底部内法寸法9 m 46cm、遺構確認面上端部内法寸法7 m 72cm～8 m 55cm）であり、⑥溝の向きは概略座標北を示して、計画性を窺わせている。尚、調査区域内からは、時期の決定を示唆する資料の出土をみていないが、⑦この2条の溝で挟まれた範囲の延長線上に当る隣接畑地等からは、須恵器片を表採している。当該地域の須恵器生産の状況や需要を考慮するならば本遺構の築造が8世紀代を中心とする時期に遡行し得るものと推測されよう。

以上①～⑦に掲げたものは全て傍証にすぎないが、その上で本遺構の性格を推定するならば、9 m前後の幅員を有する計画道路の両側溝とすることができよう。

調査区の南方延長線上にあたる位置で、東関東自動車道（館山道）の施工断面に溝条の落ち込み2ヶ所が認められている。

さて、第1図にも示したように、本遺構を挟んで南北に走る2本の現道は、西側が「久留里西往還道」であり、東側が「鎌倉街道」（地元の呼称）である。（「鎌倉街道」は、これと別に立野から袖ヶ浦へ直線的に走るルートが復元的に知られているので、椎津のものを鎌倉街道Bと仮称する。）久留里往還は、南へ下って、天羽田稲荷山遺跡に至り、ここで鎌倉街道と交叉している（本年報「天羽田稲荷山遺跡」参照）。鎌倉街道Bは、北西に延びて椎津中林遺跡へ至り、北側で千葉高倉道に連絡している。近世の往還道や中世の鎌倉街道がどこまで遡行するかは別途検討すべき課題であろうが、本遺構の性格を考える上でこれらの道が姉崎地区と望陀地区を台地上で南北に結んでいることは、参考に値しよう。遺跡の北側4 kmには、式内社の姉崎神社が見られる。字「大道」から「道作」を経て本遺跡へ至るルートを想定した場合、天羽田稲荷山で鎌倉街道と交叉しつつ、荻原岱から枝垂へ至るものとして復原できないであろうか。

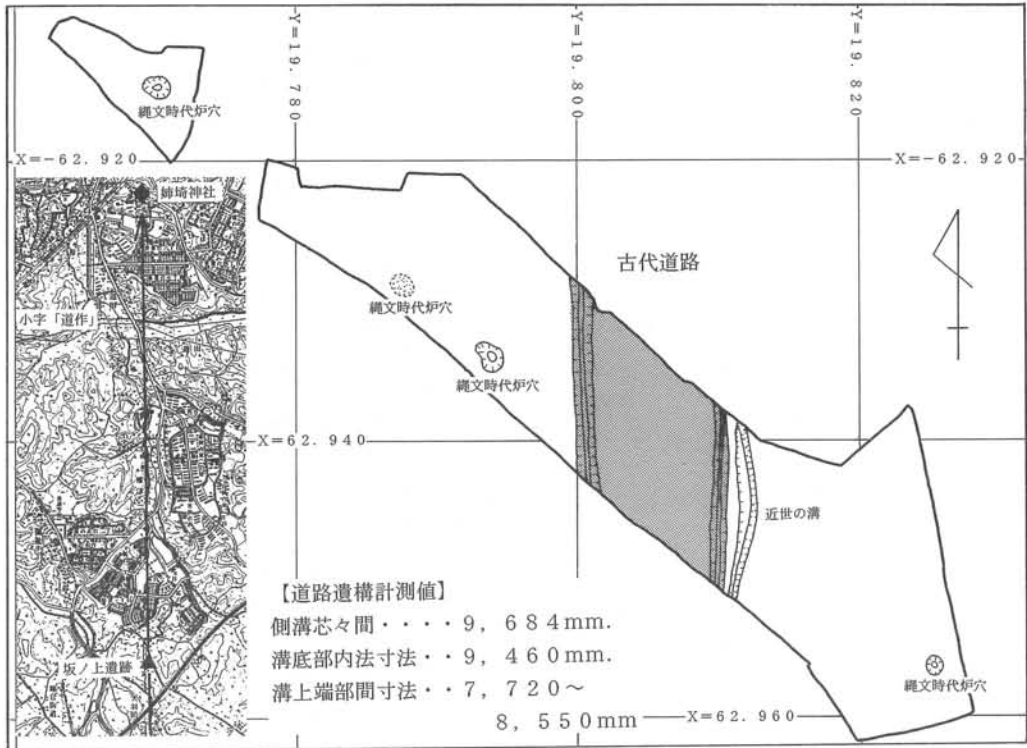


写真1 遺構遠景（北側斜め上空から）



写真2 遺構全景（北側上空から）

第3図 坂ノ上遺跡B地点の位置と遺構

あるいは、台地上の谷頭部を走るのであろうか。椎津中林から本遺跡に至った道は、六万坪で鎌倉街道へ連絡する。いずれにせよ、海上と馬來田を結ぶ最短ルートとなろう。両地域の歴史性を考えれば、今後の調査に更なる注意が促されてくる。 (田所 真)

- (参考文献) 1. 宮本敬一 「7. 椎津中林遺跡」『市原市文化財センター年報（昭和59年度）』（1985）
 2. 宮本敬一 『かつて東海道が走っていたー市原の古道』有秋公民館歴史講座資料（1988）

7. 山田橋^{やま だ ばし}大山台^{おお やま だい}遺跡

事業名 総合防災センター建設に伴う埋蔵文化財調査

所在地 市原市山田橋字大山台340-1 他

調査期間 平成7年4月1日～平成8年3月29日

調査面積 6,170㎡（本調査）

調査概要 遺跡は、市原市役所から東へ1km、国道297号線勝浦街道に沿った扇状の市原台地のほぼ中央にある。また八幡方面へ能満・市原を流れる新田川と、五井方面へ国分寺台・郡本を流れる白旗川流域の源流部分、山倉ダムを南にひかえた分水嶺上の標高33m～34mの関東ローム層（赤土）の降り積もった台地にあたる。隣接遺跡には、亥の海道貝塚・表通・大塚台・東千草山遺跡、北に千草山・稲荷台遺跡、南には山倉貝塚・南青野遺跡・武士遺跡がある。調査は市原市消防局関連事業として、平成6年度に33,200㎡を対象に確認調査を行ない、28,650㎡の本調査範囲が決定し、今年度は西側の塚台遺跡隣接部分の調査を行った。

調査の結果、ローム中の約2万年前の旧石器時代の礫群（P5区）や、赤土より少し上の褐色土中より約9千年前～7千年前の縄文時代早期の撚糸文・条痕文のある土器の出土する土坑（S4区）や炉穴（P・Q5区）がみつき、約4千年前の縄文時代中期の後半では貝塚を伴った竪穴住居跡が2軒発見された（57・65）。その他石鏃・打製石斧・磨石等も採集されている。

当遺跡の主な遺構は約1,800年位前の弥生時代後期前半の竪穴住居跡であり、弥生時代中期の宮ノ台式期の遺物遺構は一切検出されていない。同じ集落である大塚台遺跡に36軒、大山台遺跡では35軒が調査され、それと同時期と考えられる木棺直葬土壌墓が3基ある（32・46・51）。集落の中で目を引くのが、主軸長11mを越える大型の竪穴住居跡である（49・63）。この時期の住居跡としては異例に大きく、2軒あることは当集落が拠点集落で、少なくとも2時期以上継続した大集落であった可能性がある。また銅製指輪が2点住居跡から検出されており、当時の銅製品として貴重であったと思われる（24・33）。

46号木棺直葬土壌墓からは、ガラス玉7点・緑灰色管玉3点が出土しており、弥生時代中期の宮ノ台式期の管玉だけのセットから、弥生時代後期終末のガラス玉と管玉のセットに移行する過渡期に当たると考えられる。また51号木棺直葬土壌墓は、50号住居跡の廃絶に伴い住居主軸に直交して設定されており、住居と墓制を研究する上で重要な事例の発見となった。

奈良時代の47号竪穴住居の竈からは、畿内産の暗文がある坏A類が検出され、表通遺跡出土の「望館」の墨書須恵器とも同時期であるため、奈良時代の道路跡の調査とともに関心もたれる。また38号井戸状竪穴遺構からは、馬の埋葬・大量の焼土木炭が検出され、奈良時代以降の律令期の儀式習俗跡の可能性もある。

（近藤 敏）

藤井一丁目
字在長面

八幡
新田川水系



藤井三丁目
郡本大宮遺跡

千草山遺跡1次

稻荷台遺跡

千草山遺跡2次

稻荷台1号墳

千草山廃寺

稻荷台遺跡G地点

宮前遺跡

東千草山遺跡

亥の海道貝塚遺跡

山田橋表通遺跡

山田橋字本郷

五井白幡川水系

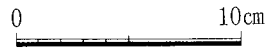
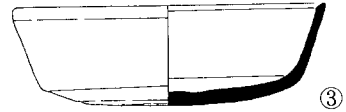
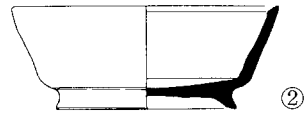
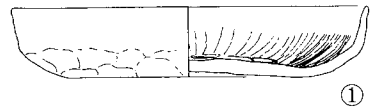
山田橋大山台遺跡

山田橋大塚台遺跡

山田橋大塚台古墳

山田橋大山台遺跡位置図 (1:5,000)

- ① 山田橋大山台遺跡 47号遺構出土 畿内産土器
- ② 山田橋表通遺跡 21号遺構出土 永田窯産須恵器
- ③ 山田橋表通遺跡 21号遺構出土 墨書須恵器（望館）
- ④ 山倉池ノ谷遺跡 出土 墨書土器（野木家）



山田橋大山台遺跡平成7年度調査区全体図

8. 潤井戸中横峰遺跡

事業名 都市計画道路押沼安須線（潤井戸地先）建設に伴う埋蔵文化財調査

所在地 市原市潤井戸272 他

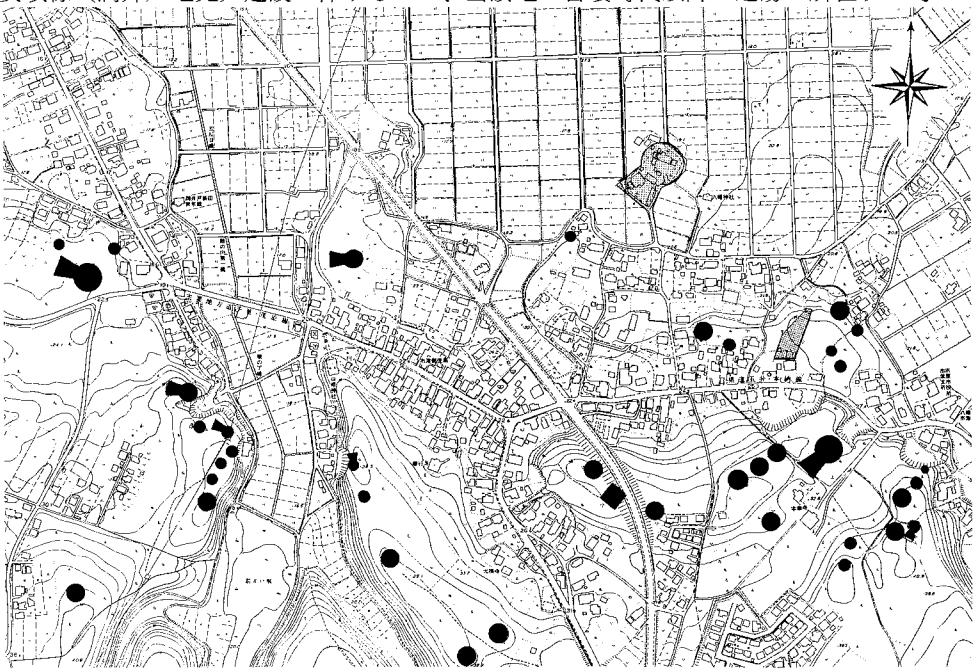
調査期間 平成7年5月8日～平成7年6月9日（確認調査）

平成7年6月19日～平成7年8月10日（本調査）

調査面積 2,500㎡のうち250㎡（確認調査） 900㎡（本調査）

調査概要 遺跡は、村田川中流域の中位河岸段丘面に位置している。今回の調査は、都市計画道路押沼安須線（潤井戸地先）建設に伴うもので、当該地に古墳時代以降の遺跡が所在する可能性が

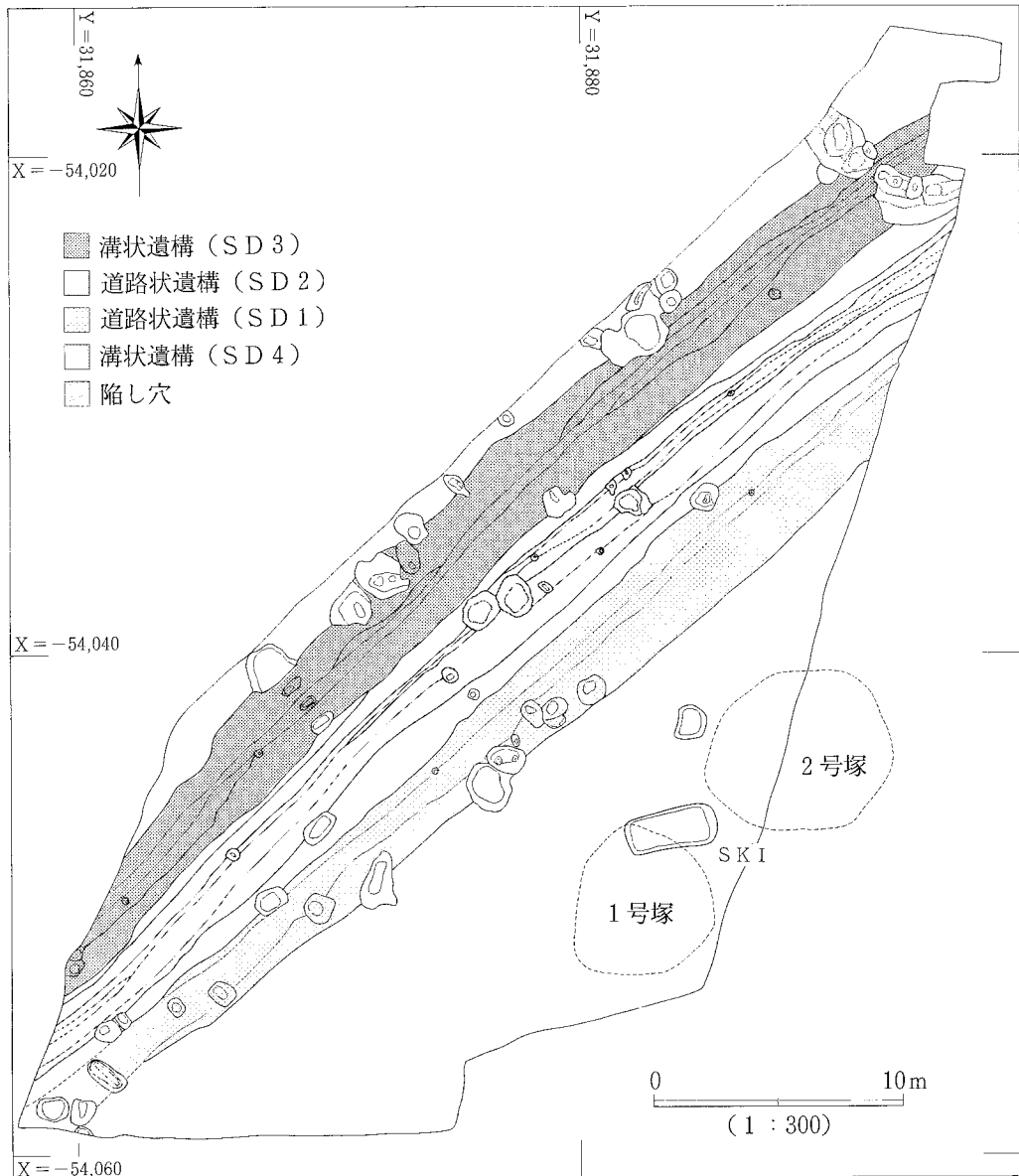
あることから、平成7年5月から6月にかけて遺跡の状況を把握する確認調査を行った。この確認の結果、溝跡、道路跡、



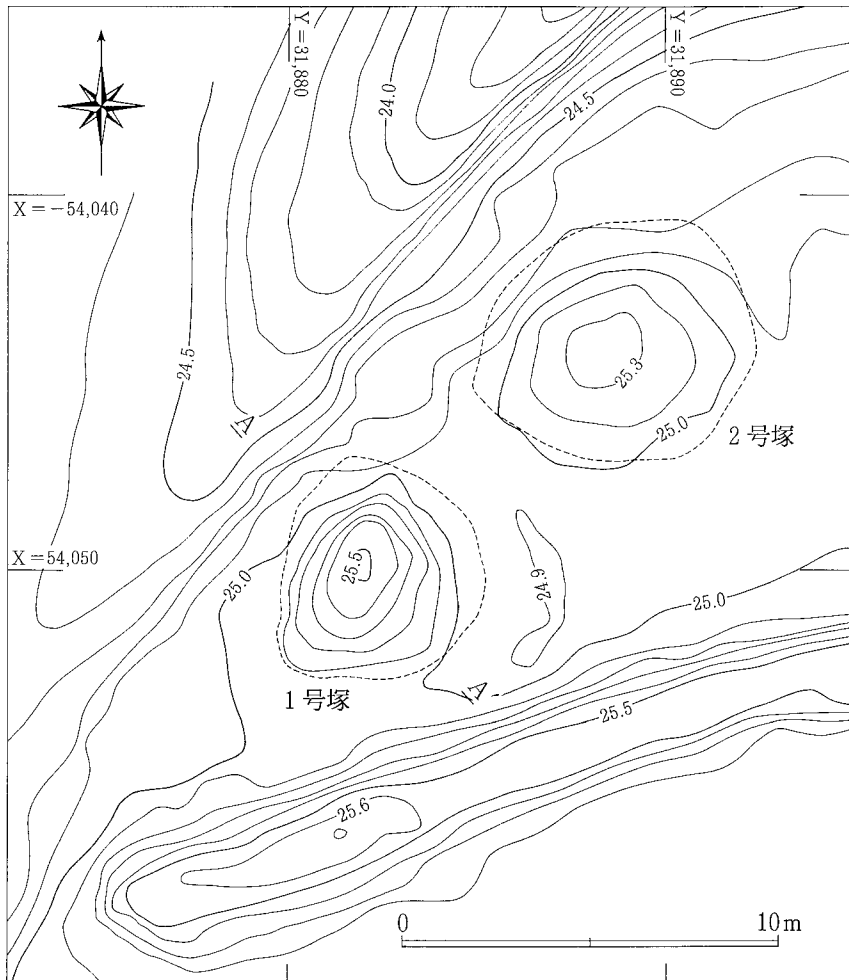
潤井戸中横峰遺跡の位置（S = 1 / 12,500）

塚等の所在が検出され、対象地のうち900㎡について本調査を行なう必要が生じ、この部分の調査となった。調査の結果、中世期の道路状遺構2条、奈良・平安期の溝状遺構2条および土坑5基、縄文時代陥し穴1基、近世塚2基を検出した。道路状遺構（SD1）については、上端幅2～3mで掘り込みの浅い皿状の溝形態の遺構である。底面に硬化した部分が残存していた。もう一方の道路状遺構（SD2）については、やはり上端幅2～3mで掘り込みの浅い逆台形状を呈している。道路面は比較的しっかりした硬化面を持ち、数層にわたっているが、大略二時期に分類される。また、道路下面からは「永楽銭」、肩部分からは「祥符通寶」各々1枚が出土している。覆土の状況から、中世期のものと推定している。溝状遺構（SD3）については、上端幅4m、下端幅50cm、深さ60cmのV字型の形状を呈している。溝として使用され

ていたが、ある程度埋没した段階で道路として使用された形跡があり、溝底部より奈良・平安期の土師器・須恵器が出土している。近世塚2基については、現状規模、径6～7m、高さ0.5mのやや扁平な形状である。調査の結果、焼土層がみられ、塚を造る際に何らかの祭祀を行った痕跡が認められる。また、北側の塚の表層土下から宝永期の火山灰堆積層が検出されている。塚の性格は現状では不明である。以上、今回の調査により村田川の下位段丘面から南側の台地部分に上がる中世期の主要道路およびそれ以前の溝跡、また、近世期の塚などを検出し、この地域の中世から近世にかけての歴史を考察するうえでの資料を得た。 (小出紳夫)



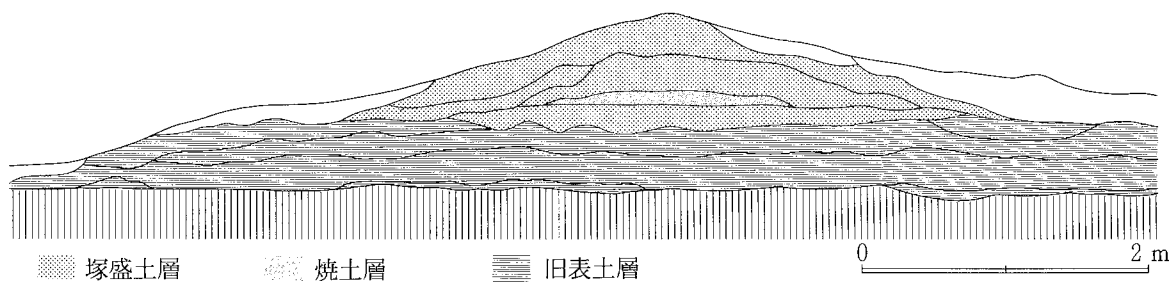
潤井戸中横峰遺跡遺構図



1号・2号塚測量図 (1 : 200)

A 28.7m

A'



1号塚土層断面図 (A · A')

9. 姉崎妙経寺遺跡

事業名 姉崎駅前区画整理事業に伴う発掘調査

所在地 市原市姉崎453番地 他

調査期間 平成7年4月1日～平成7年5月31日（確認調査）

平成7年10月1日～平成7年12月4日（本調査）

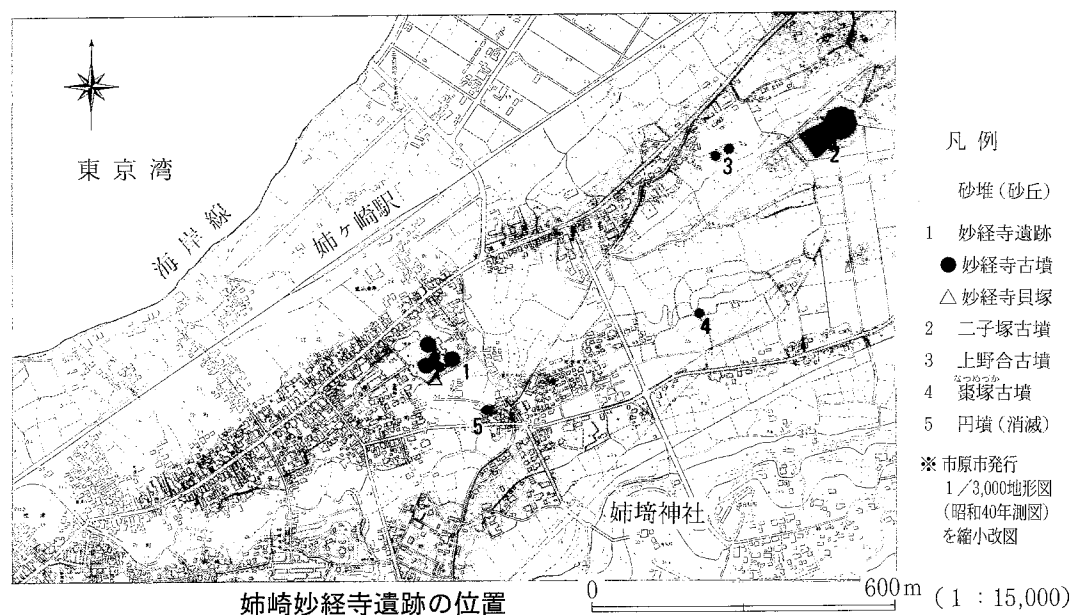
調査面積 3,700㎡のうち220㎡（確認調査）1,120㎡（本調査）

調査概要 遺跡はJR姉ヶ崎駅の南東約300mに位置する妙経寺境内地に所在する。遺跡が所在する地形は、海岸部分の砂堆（砂丘）上で標高6～7mを測り、周囲の町並より3～4mほど高い地形を示している。

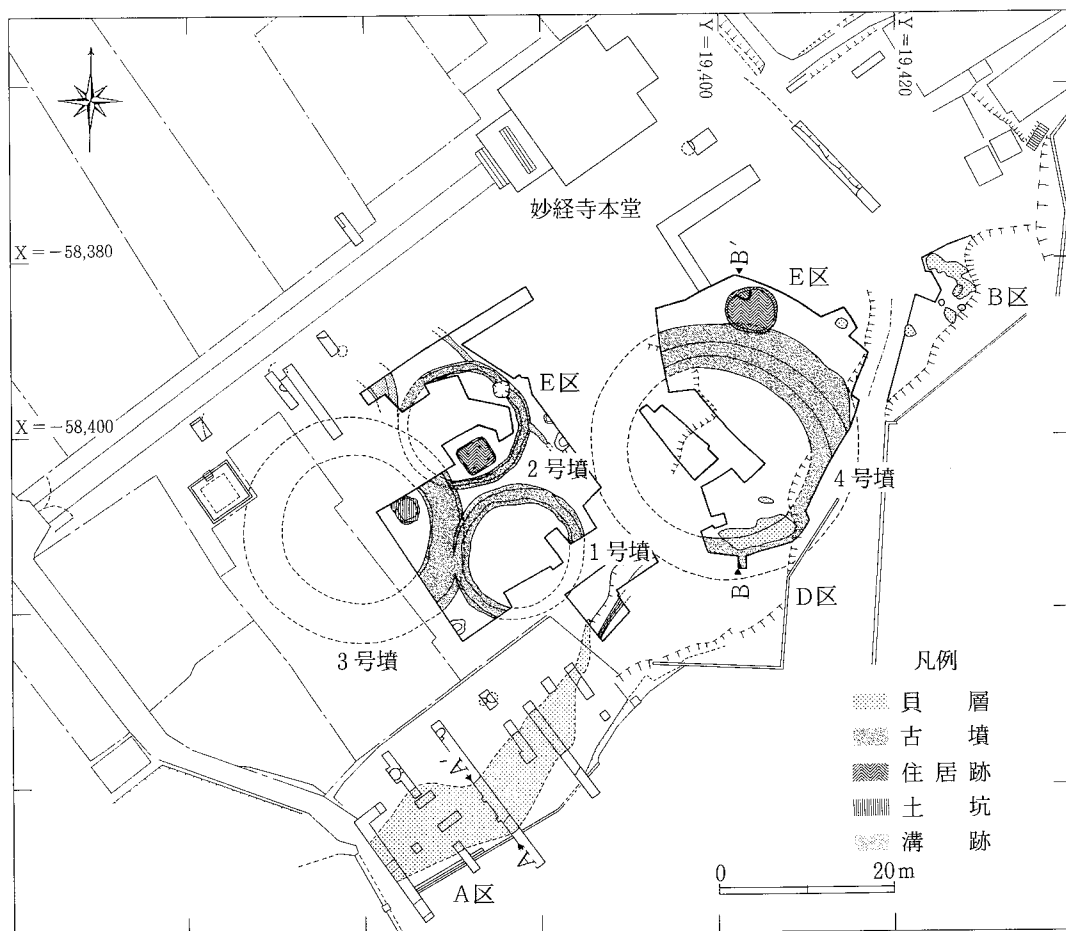
今回の調査は、市原市の「姉崎駅前土地区画整理事業」による妙経寺墓地の改葬・転移に伴うもので、確認・本調査あわせて約1,380㎡の発掘を行った。

調査の結果、縄文時代中期の大規模な貝層と縄文時代中期初頭の竪穴住居跡1軒および古墳時代初頭の竪穴住居跡1軒・土坑（住居跡の可能性）1基・古墳4基・時期不明の溝跡2条などが発見された。

貝塚は、妙経寺が建てられている砂堆の南側斜面部（姉崎神社側）に最大120cmの厚さで堆積しており、その範囲は100mもの長さで続く弧状を呈している。貝塚の造られた時期は、縄文時代中期中頃から後半で、貝層内からは、石器・土器・骨角貝製品などの人工遺物や魚骨・獣骨などが多く発見されている。



古墳は、墳丘部分が削平されており、4基とも周溝部分の検出であった。このうち1・2号墳は円墳で、内径12m前後の規模を有する。3号墳は、部分的な調査であったが、推定18m近い円墳と推定している。4号墳は推定20mの円墳で、全体的に幅広の周溝を持っている。時期については、遺構の重複関係や周溝から出土した土器などから1号墳は5世紀後半頃、3・4号墳は7世紀頃と推定している。また、2号墳・3号墳の墳丘下で検出した住居跡及び土坑は、出土土器から古墳時代初頭頃と推定している。 (小出紳夫)

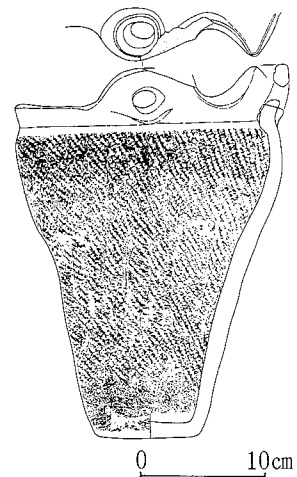


姉崎妙経寺遺跡全体図

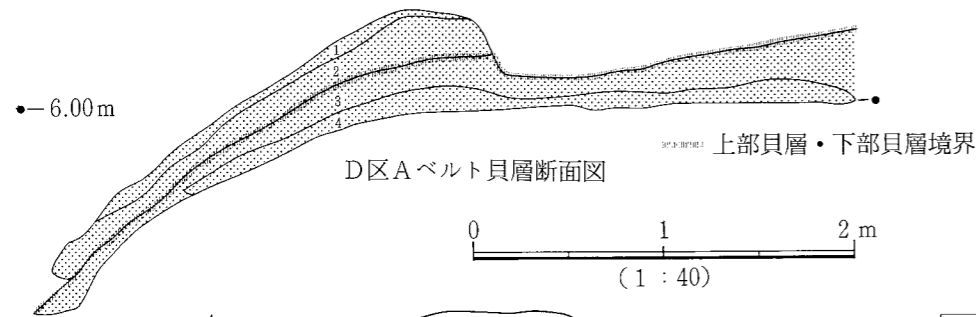
姉崎妙経寺貝塚

姉崎妙経寺貝塚は、これまで市内で調査している比較的谷奥の標高30～40m程の台地上に立地する貝塚とは異なり、東京湾の旧海岸線から400m程しか離れていない砂堆上に立地し、その標高6m程とかなり低地に位置している。貝層はこの砂堆の台地側（南側）の斜面部に最大120cm程の厚さで堆積しており、部分的に後世のカクランで破壊されているものの、その分布範囲はA・D・B区に亘って100m程の長さで続く弧状を呈していたとみられる大規模貝塚である。貝層は縄文中期中頃の勝坂・阿玉台式期の下部貝層と、若干の休止期をおいてこれより上に堆積する中期後半の加曾利EⅡ式期の上部貝層の2時期のものがある。これらの時期の大規模な貝塚は千葉市などでは加曾利貝塚を筆頭に多くみられるが、市原市ではその多くは縄文後期のもので、中期のものはあまり知られていない。低地もしくは海岸部付近に立地する大規模な貝塚としては、これまでに東京都の伊皿子貝塚や中里貝塚、千葉県市川市の奉免安楽寺貝塚、千葉市の宝導寺貝塚などが知られている。これらの貝塚では、貝層内に土器や石器などの人工遺物や貝殻以外の魚骨・獣骨などの自然遺物が極端に少なく、貝層の間に灰・炭化物・焼けた破碎貝などの層がみられることを大きな特徴とし、遺跡の性格を台地上の集落に付随する貝塚とは異なる一時的な作業場とする見方がつよい。妙経寺貝塚は、A・D区の貝層中に灰・炭化物・破碎貝層などがみられ、D区の貝層直下から集石遺構が検出されるなどその場で何等かの作業がおこなわれた痕跡は認められたが、貝層中には石器・土器・骨角貝製品などの人工遺物や魚骨・獣骨が含まれ、特に下部貝層および貝層下砂層中からは多量の獣骨や黒曜石のチップ・フレークが検出されるなど、これまで調査している台地上の大規模貝塚とあまり変わらない様相を示し、付近に定住的な集落のあることを想定させるような内容であった。遺構の存在が期待される砂堆上平坦部にあたるD区の4号墳周溝下砂層中より、今回検出された貝塚形成時期より古い段階にあたる縄文中期初頭の下小野・五領ヶ台式期の住居跡1軒を発見した。

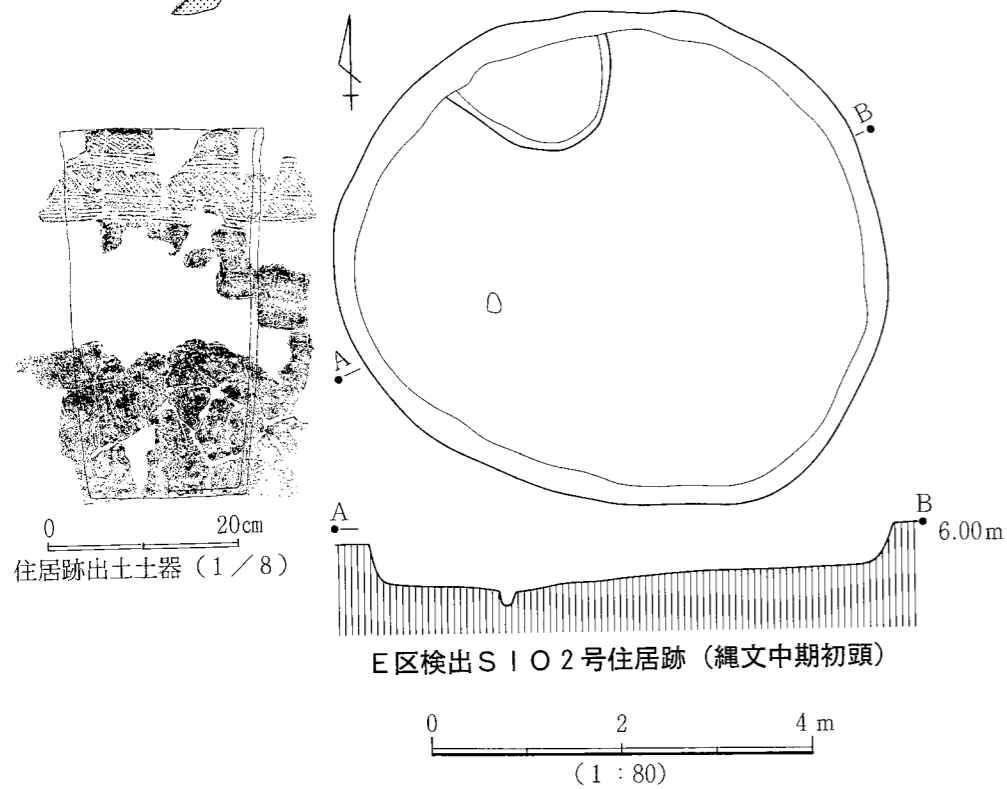
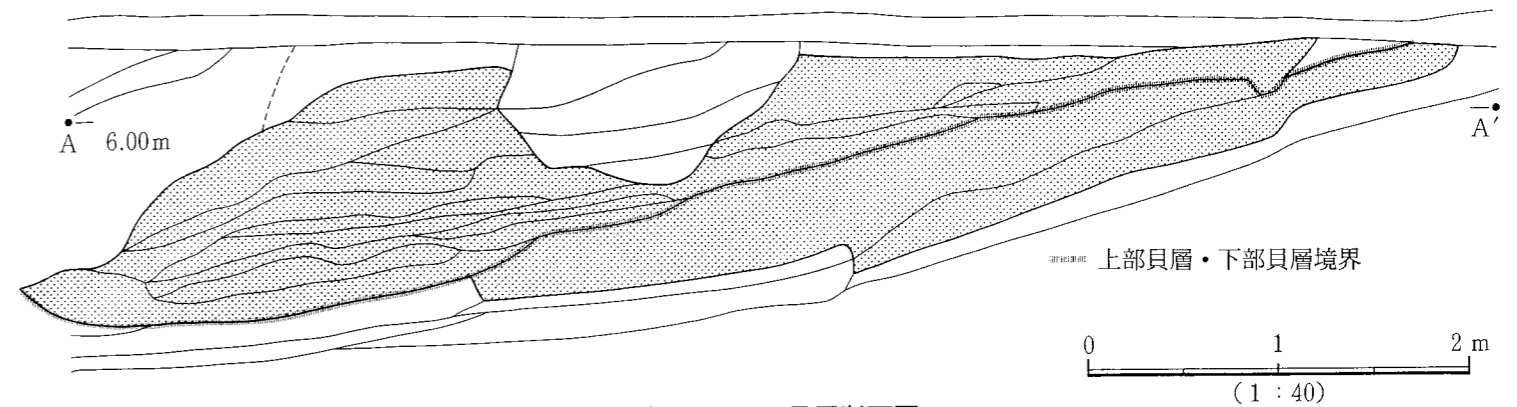
(忍澤成視)



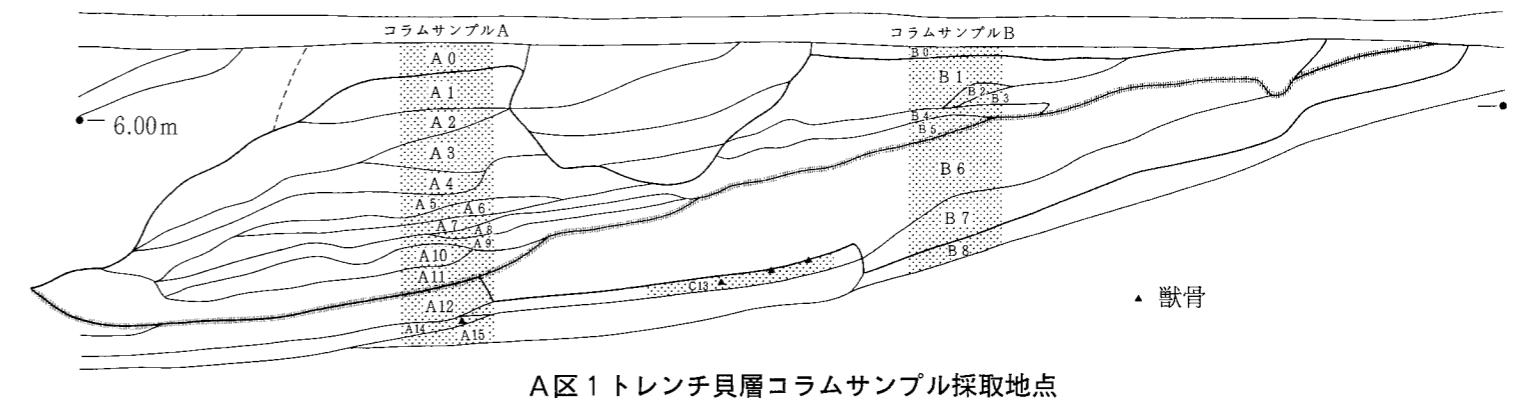
B区貝層直下出土土器（1／6）



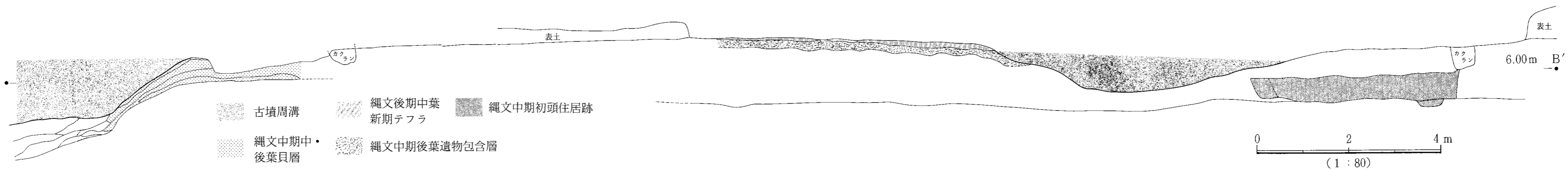
層位	種別	破碎の有無	主体貝種	混入物
1	混貝	有	ハマグリ	-
2	混砂	有	ハマグリ・アサリ	-
3	混貝～純砂	有	ハマグリ	-
4	純貝	無	大型ハマグリ	-



層位	種別	破碎の有無	主体貝種	混入物	備考
A0	混貝	-	-	-	カクラン
A1	混砂	有	ハマグリ	-	
A2	混砂～純貝	無	イボキサゴ	灰	
A3	混砂	有	ハマグリ	灰	
A4	混砂	有	ハマグリ	炭・灰	
A5	混砂～純貝	有	ハマグリ・イボキサゴ	灰	
A6	純貝	有	ハマグリ	炭・灰	
A7	混砂～純貝	有	ハマグリ・イボキサゴ	灰	
A8	純灰層	-	-	-	下面焼破砕貝
A9	純貝	有	ハマグリ・イボキサゴ	炭・灰	
A10	混砂～純貝	有	ハマグリ・イボキサゴ	-	
A11	混砂～混貝	有	ハマグリ・イボキサゴ	-	
A12	黒褐色砂	-	-	-	やや粘質 獣骨
A14	暗茶褐色砂	-	-	-	やや粘質
A15	鉄分多含砂	-	-	-	磨石出土
B0	混貝	-	-	-	カクラン
B1	混砂～混貝	有	ハマグリ・イボキサゴ	-	
B2	純貝	有	イボキサゴ	-	
B3	混砂	有	ハマグリ・イボキサゴ	-	
B4	純灰層	-	-	-	下面焼破砕貝
B5	混砂	有	ハマグリ・イボキサゴ	-	加曽利E大破片
B6	混貝	有	ハマグリ・イボキサゴ	-	獣骨
B7	混砂～純貝	無	大型ハマグリ	-	獣骨
B8	青灰色砂	-	-	-	
C13	暗茶褐色砂	-	-	-	磨石・磨石フレックチップ



A区1トレンチ貝層コラムサンプル採取地点



10. 潤井戸内野遺跡

事業名 市内遺跡発掘調査

所在地 市原市潤井戸字内野1355-2 他

調査期間 平成7年7月10日～平成7年7月18日

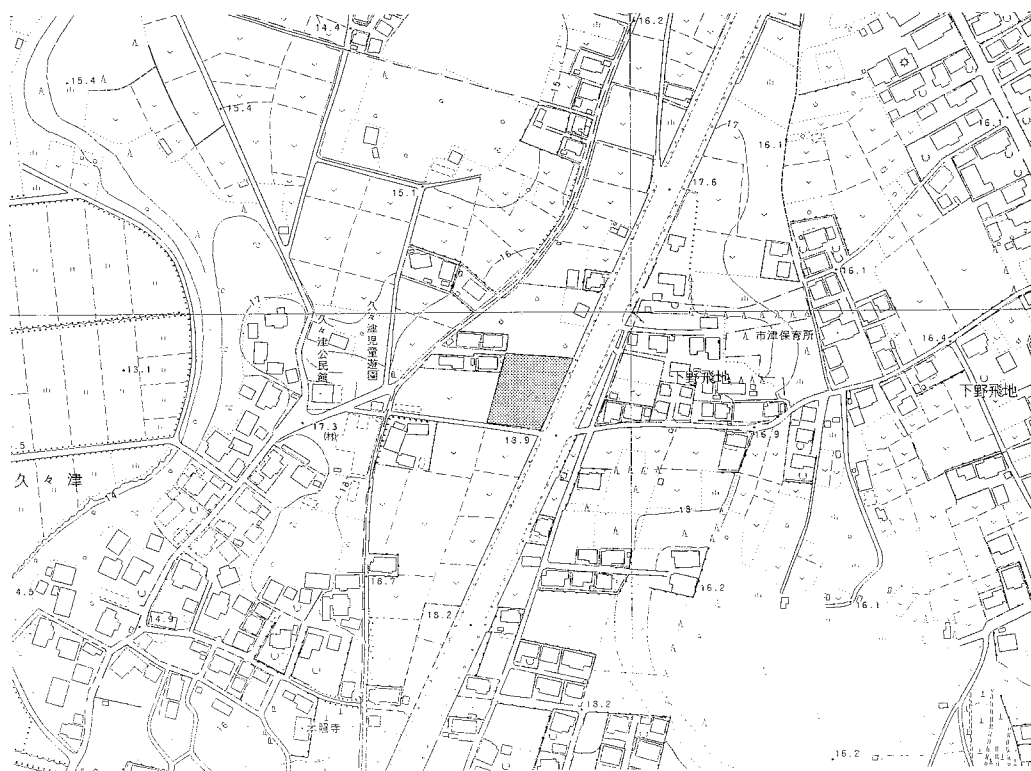
調査面積 1,515㎡のうち152㎡（確認調査）

調査概要 遺跡は、村田川中流域南岸に面した標高約18mのやや奥まった緩やかな河岸段丘上に位置する。北方に隣接して、潤井戸西山遺跡、草刈尾梨遺跡がある。この2遺跡は本来同一の隣り合う遺跡で、弥生時代中期の環濠が検出されたほか、古墳時代の豪族居館跡の可能性が指摘されている。

調査の結果、縄文時代の陥し穴2基が検出されたほか、縄文時代中期の勝坂式土器や磨石が検出された。弥生時代以降の遺構・遺物の検出はなく、西山遺跡・尾梨遺跡の広がり、ここまでは及んでいないと判断される。なお、本遺跡は太平洋戦争末期、陸軍による造成を受け、塹壕・対空砲火陣地・進入通路が確認されている。なお、詳細については下記文献を参照されたい。

（高橋康男）

「I 潤井戸内野遺跡」『平成7年度 市原市内遺跡発掘調査報告』 1996



潤井戸内野遺跡位置図（1/5,000）

11. 鶴舞子来遺跡

事業名 市内遺跡発掘調査

所在地 市原市鶴舞字子来661-1

調査期間 平成7年7月19日～平成7年7月27日

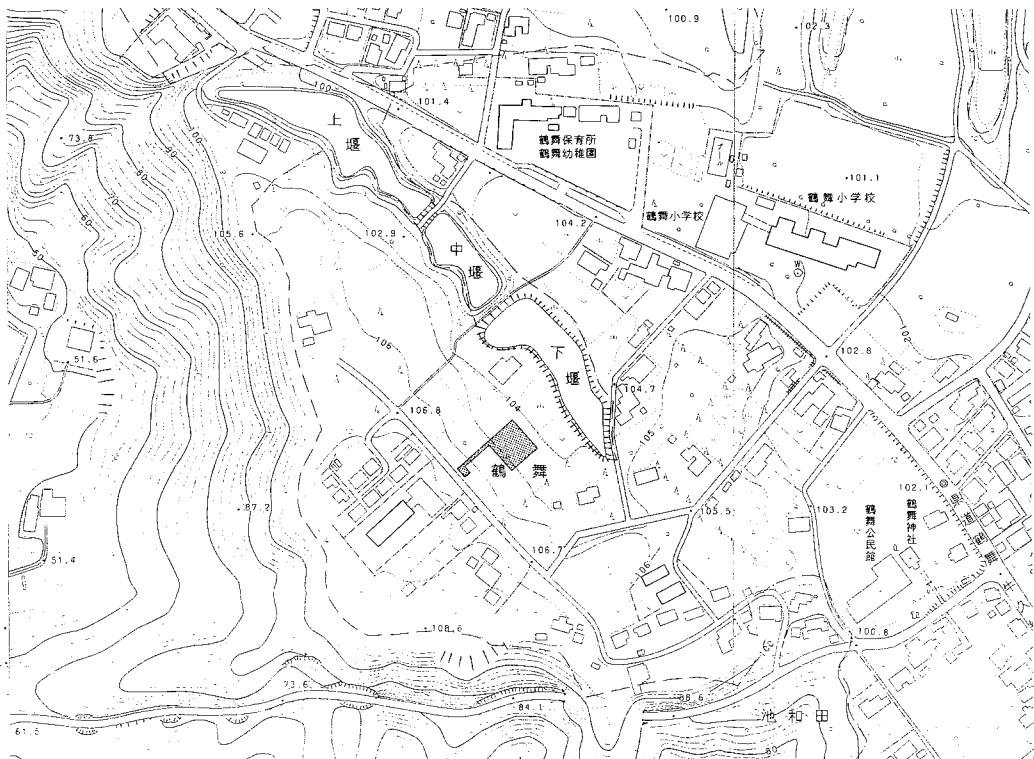
調査面積 520㎡のうち52㎡（確認調査）

調査概要 遺跡は、養老川支流の平蔵川を南に見下ろす標高約105mの台地上に位置する。台地上には、縄文時代中・後期の土器、土師器・須恵器の散布がみられる。また、遺跡北方には幕末に鶴舞藩庁がおかれ、土塁上の高まりを随所に残している。

調査の結果、調査区の大半が北方に緩やかに下る埋没谷である事が判明し、わずかに、調査区の南端において小竪穴状遺構が検出されたにとどまった。おそらく、当該地南西方向に広がる集落の北縁にあたるものと考えられる。遺物は、縄文時代中期後半から後期全般におよぶ土器が出土した。小竪穴からは、加曾利EⅢ・EⅣ式土器が多く出土したが、調査区全体では加曾利B式が多い。石器では、磨石・叩石が出土している。なお、詳細については下記文献を参照されたい。

（高橋康男）

「Ⅱ 鶴舞子来遺跡」『平成7年度 市原市内遺跡発掘調査報告』 1996



鶴舞子来遺跡位置図（1/5,000）

12. 上高根大作遺跡

事業名 市内遺跡発掘調査

所在地 市原市上高根字大作1515-1

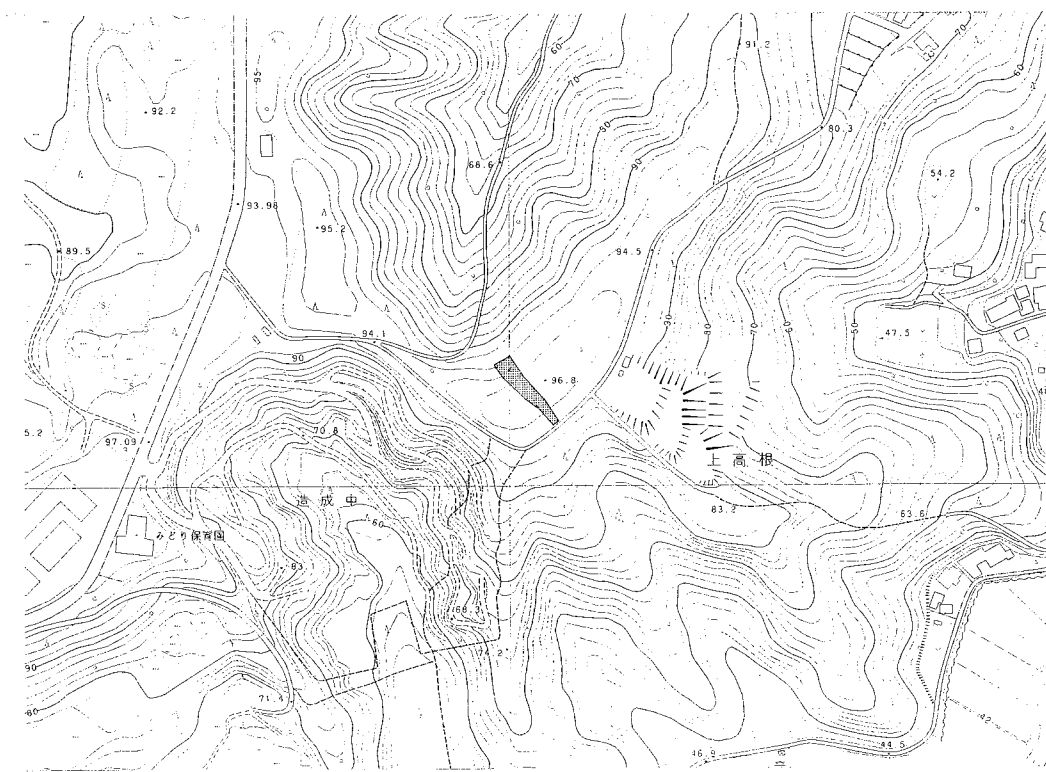
調査期間 平成7年7月28日～平成7年8月3日

調査面積 280㎡のうち30㎡（確認調査）

調査概要 遺跡は、養老川中流域西岸の標高約95mの台地上に位置する。周辺には周知の遺跡はなく、本遺跡も新たに発見されたものである。小谷により樹枝状に開折された尾根の頂部にあたり、この狭長な平坦面を横断する形で調査を行った。

調査範囲が細長く、また面積も限られているため、面的な様相を把握することは困難であったが、縄文時代中期後葉の住居跡5軒・小竪穴状遺構2基などを確認した。平坦面全面にわたって集落が展開していると考えられる。出土した土器はいずれも加曽利E式で、量的にはEⅡ式、EⅢ式、EⅣ式の順に増加していくが、後続する型式の出土は認められない。石器については、磨石・叩石・浮子等が出土している。なお、詳細については下記文献を参照されたい。

「Ⅲ 上高根大作遺跡」『平成7年度 市原市内遺跡発掘調査報告』 1996 (高橋康男)



上高根大作遺跡位置図 (1/5,000)

13. 南岩崎仲山遺跡

事業名 市内遺跡発掘調査

所在地 市原市南岩崎字仲山686-1 他

調査期間 平成7年11月21日～平成7年12月14日

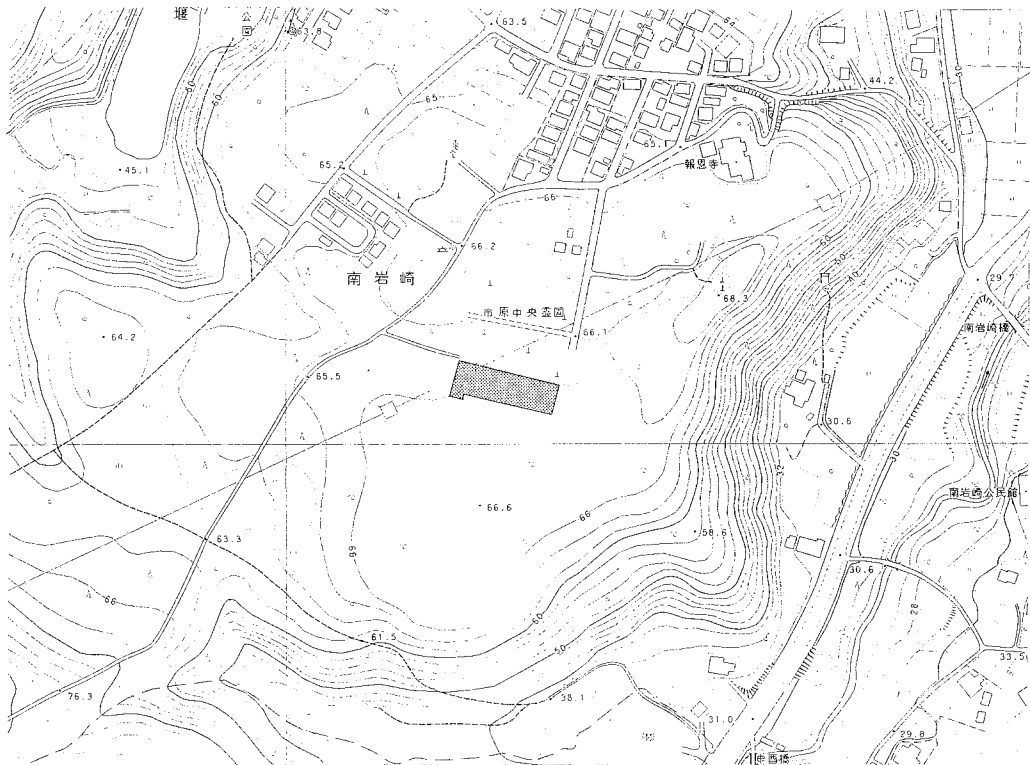
調査面積 1,600㎡のうち160㎡（確認調査）

調査概要 遺跡は、養老川中流域西岸の標高約65mの台地状に位置する。台地東側には、前方後円墳2基を含む報恩寺古墳群が展開している。また、報恩寺および東側斜面地には戦国時代の南岩崎砦跡がある。

調査の結果、縄文時代の陥し穴1基、7世紀の方形周溝状遺構1基、中世の溝状遺構2条等を検出した。このうち、方形周溝状遺構は西半のみの確認となったが、外法で一辺17m、周溝は上端幅3mで断面形は逆台形を呈する。今回は1基のみの検出にとどまったが、台地上に墓域を構成すると思われる。遺物は、わずかに縄文時代早期・弥生時代後期の土器片のほか、7世紀代の土師器が検出されたにとどまり、また、中世溝状遺構からは、北宋銭が11点検出された。詳細は、下記文献を参照されたい。

（高橋康男）

「V 南岩崎仲山遺跡」『平成7年度 市原市内遺跡発掘調査報告』 1996



南岩崎仲山遺跡位置図（1/5,000）

14. やわた いち はら じょうり せい 八幡市原条里制遺跡

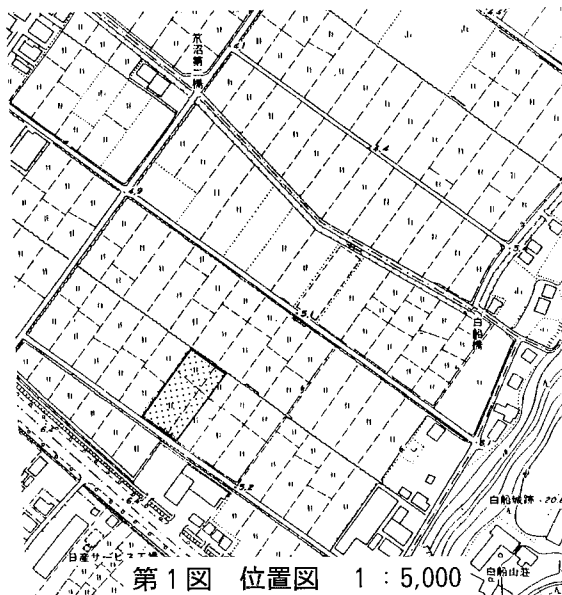
事業名 市内遺跡発掘調査

所在地 市原市八幡字砂田261-2, 262-2

調査期間 平成8年1月11日～平成8年2月5日

調査面積 429㎡（本調査）

調査概要 当遺跡は、東京湾東岸に広がる沖積低地上で標高は約5mである。古代からの条里制遺構などが存在しており、東側に隣接する館山自動車道建設に先立つ調査でも縄文後期から近世にいたる遺構や包含層が検出されている。特に古代から近世にかけては、畦畔跡が部分的



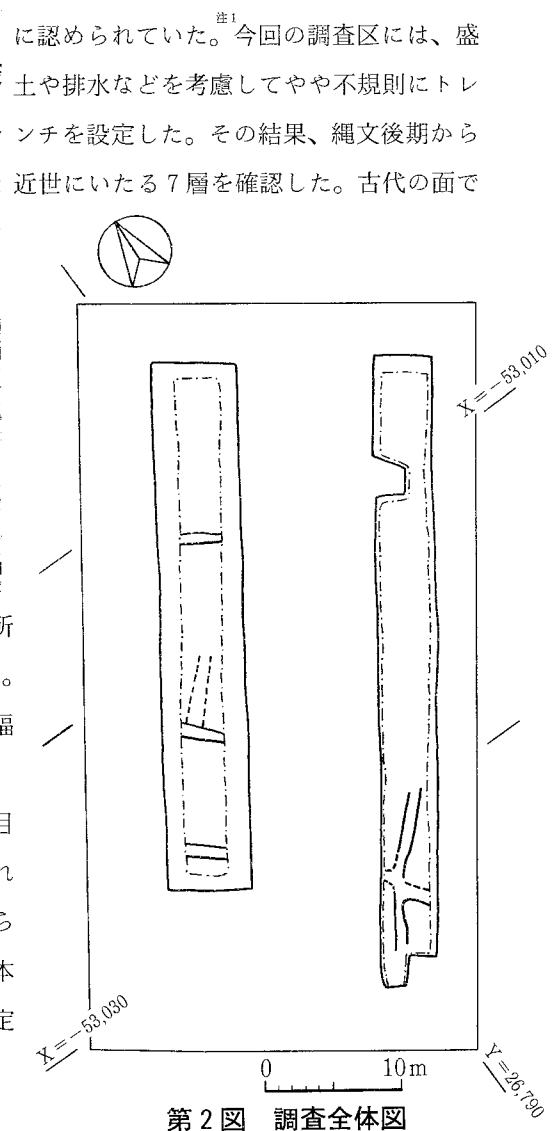
第1図 位置図 1:5,000

に認められていた。^{注1} 今回の調査区には、盛土や排水などを考慮してやや不規則にトレンチを設定した。その結果、縄文後期から近世にいたる7層を確認した。古代の面で

は、いわゆる疑似畦畔といわれる水田区画を4ヶ所検出した。南側では交差している部分も認められた。主方向はN-40°-E前後を示している。各々の幅は1m前後であり、坪内地割の畦畔と考えられる。出土遺物は、平安時代の土師器片や須恵器片、布目瓦片などが少量検出した。また、縄文後期とみられる層からは遺物は認められていない。近世の層からは、宝永期の火山灰が部分的に存在した。なお、本報告は、平成9年度市内遺跡調査報告書に掲載予定である。

注1 大谷弘幸氏ご教示

(田中清美)



第2図 調査全体図

15. 永吉鬼子母神遺跡

事業名 市原市市東第一土地区画整理事業（第2地点）に伴う埋蔵文化財調査

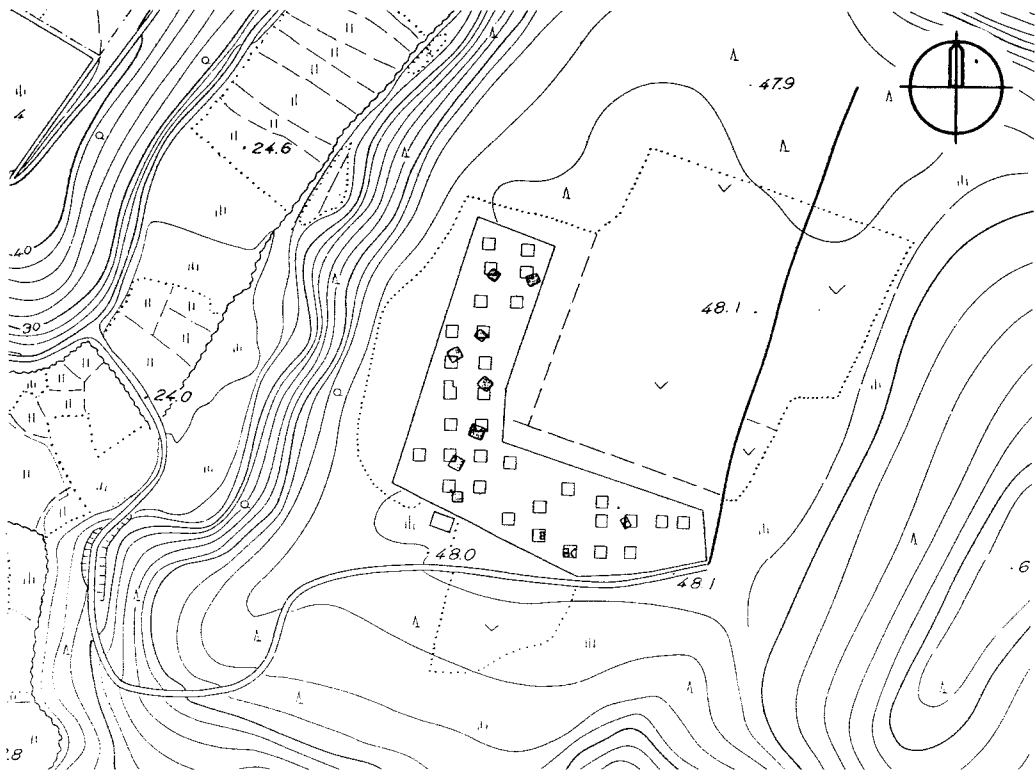
所在地 市原市永吉字田丸1,300番3地先

調査期間 平成7年5月26日～平成7年6月30日

調査面積 4,955㎡のうち495.5㎡（上層）49.5㎡（下層）（確認調査）

調査概要 永吉鬼子母神遺跡は、市原市市東第一土地区画整理事業（第2地点）に伴い発掘調査が行われた。本遺跡は、村田川左岸の標高約48m前後の台地上に位置する。当遺跡の周囲には、奈良・平安時代を中心とした竪穴住居跡や掘立柱建物跡が展開している永吉松ノ木台遺跡が北西側に存在し、南西側には、縄文時代陥し穴状遺構や平安時代の竪穴住居跡等が存在している永吉花ノ台遺跡がある。調査対象面積は4,955㎡であり、上層は、このうちの10%にあたる495.5㎡について、主に4×4mのグリッドを設定することにより調査を行った。

調査の結果検出された遺構は、古墳時代後期に比定される竪穴住居跡8軒、古墳時代と考えられる掘立柱建物跡3棟、及び土坑2基が検出された。また、下層については、調査対象面積4,955㎡の1%にあたる49.5㎡について2×2mのグリッドを設定することにより調査を行ったが、旧石器時代の遺物等については検出されなかった。（小川浩一）



永吉鬼子母神遺跡調査範囲と周辺地形（1/2,500）

16. 中野寺沢台遺跡

事業名 市原市市東第一土地区画整理事業（第6地点）に伴う埋蔵文化財調査

所在地 市原市中野字寺沢台176地先 他

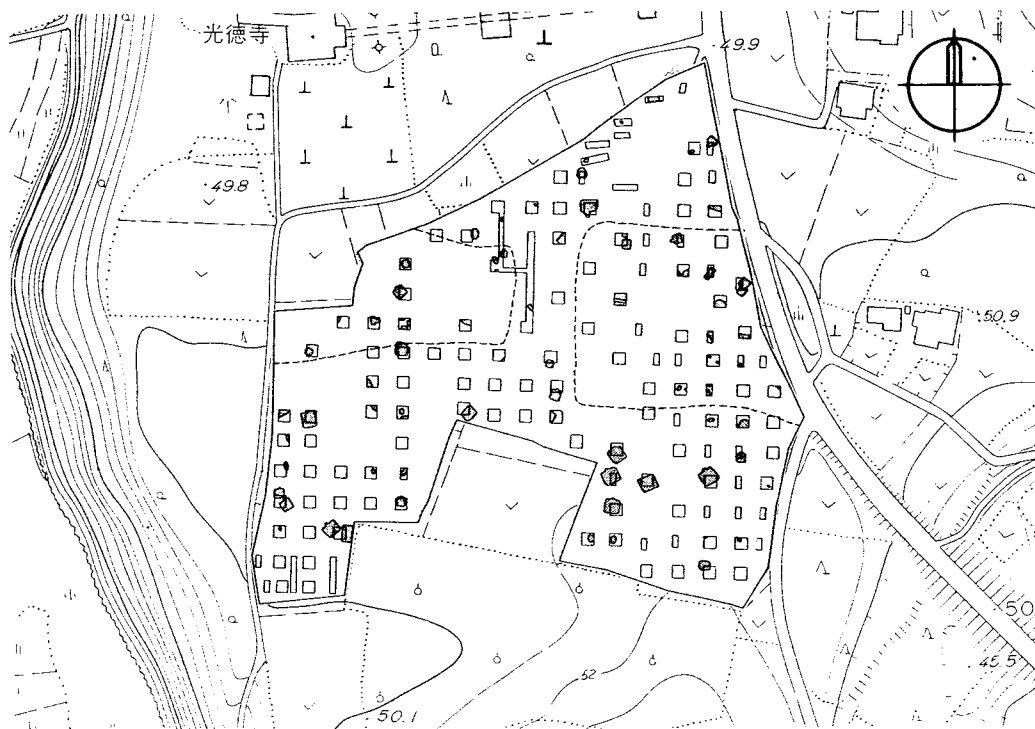
調査期間 平成7年7月17日～平成7年9月25日

調査面積 19,473㎡のうち1,947㎡（上層）194㎡（下層）（確認調査）

調査概要 中野寺沢台遺跡は、市原市市東第一土地区画整理事業（第6地点）に伴い、発掘調査が行われた。本遺跡は、村田川左岸の標高約50m前後の台地上に位置する。遺跡の北側に隣接する光徳寺は、地元では「市東城（中野城）」とも呼ばれている。調査対象面積は、19,473㎡で、上層については、10%にあたる1,947㎡を、主に4×4mのグリッドを設定することにより調査を行った。

調査の結果、縄文時代中期土坑2基、縄文時代中期陥し穴2基、古墳時代後期竪穴住居跡11軒・土坑12基、平安時代竪穴住居跡4軒・土坑2基、中世地下式壙7基・方形竪穴15基・土坑27基及び、中世整地面が検出された。特に、先述した光徳寺の寺域に沿って中世の整地面が存在しており、周囲に墓域が展開していると考えられる。なお、下層については、調査対象面積19,473㎡の1%にあたる194㎡について2×2mのグリッドを設定することにより調査を行ったが、旧石器時代の遺物等は検出されなかった。

（小川浩一）



中野寺沢台遺跡調査範囲と周辺地形図（1/2,500）

17. 永吉^{ながよし}金原^{かんはら}遺跡

事業名 市原市市東第一土地区画整理事業（第1地点その2）に伴う埋蔵文化財調査

所在地 市原市永吉字金原1,336番地 他

調査期間 平成8年2月1日～平成8年3月22日

調査面積 8,624㎡のうち862㎡（上層）86㎡（下層）（確認調査）

調査概要 永吉金原遺跡は、市の北部を流れる村田川上流域の東西約1km・南北約500mもの広さを持つ洪積台地上の中央部分に位置している。この台地には、縄文土器・土師器などが散布する鹿ノ原遺跡や、大小30基程の円墳からなる西鹿ノ原・東鹿ノ原古墳群などが所在している。また村田川をはさんだ対岸は、千葉県文化財センターが調査を進めている旧石器から平安時代までの複合遺跡である草刈遺跡等が所在する。

今回の調査は、この台地南側部分について大規模土地区画整理事業地の範囲にあたるため、その予



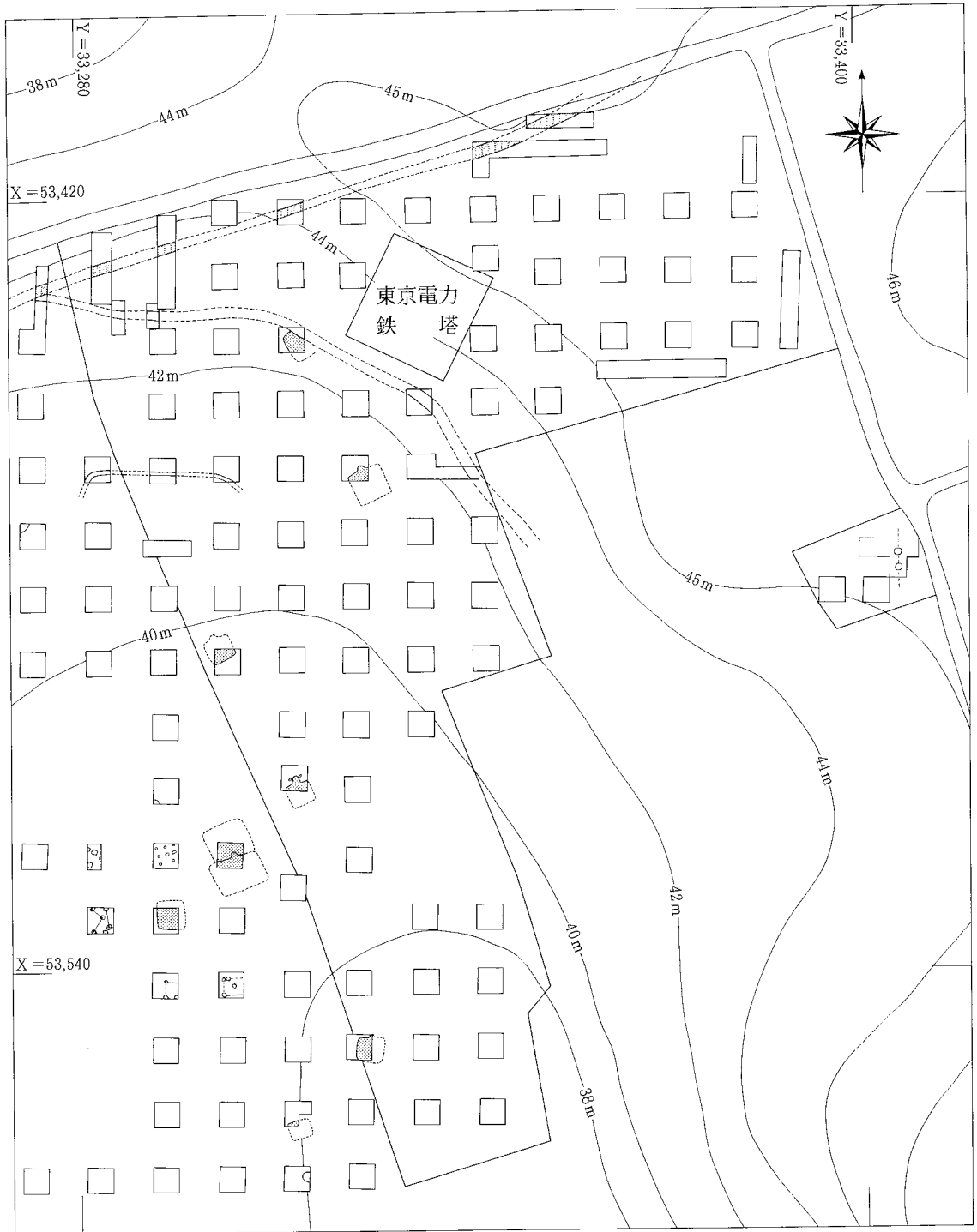
永吉金原遺跡の位置 (S = 1/20,000)





備調査の一環として行うこととなり、対象面積8,624㎡の確認調査を実施した。

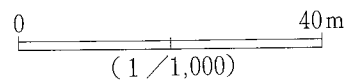
調査の結果、奈良・平安時代の住居跡5軒、同時期と考えられる掘立柱建物跡1棟、中世以前に掘られた溝跡1条、中・近世の時期に掘られた溝跡1条が確認された。

また、下層確認調査（旧石器時代）では、調査区北側（東電鉄塔付近）において、地表下約1.7m前後の第2ブラックバンド中から黒曜石製の石刃2点を検出した。

以上の結果から、永吉金原遺跡は奈良・平安時代頃に営まれた集落跡の可能性があり、また、下層調査から、旧石器時代の遺跡としてとらえることができる。 (小出紳夫)



- | | |
|---|---|
|  竪穴住居跡 |  溝跡 (中・近世) |
|  溝跡 (中世以前) |  掘立柱建物跡 |



永吉金原遺跡グリッド配置図

18. ながよしまつのきだい 永吉松ノ木台遺跡

事業名 市原市市東第一土地区画整理事業（第1地点その3）に伴う埋蔵文化財調査

所在地 市原市永吉松ノ木台1,221番1地先 他

調査期間 平成7年12月1日～平成8年3月25日

調査面積 24,690㎡のうち2,469㎡（上層）246㎡（下層）（確認調査）

調査概要 永吉松ノ木台遺跡は、村田川左岸の標高約40～45mの台地上に位置する。本調査区に隣接する東側は、永吉金原遺跡として同年度に調査が行われている。調査対象面積は24,690㎡で、上層については、このうちの10%にあたる2,469㎡を、主に4×4mのグリッドを設定することにより調査を行った。

調査の結果、縄文時代陥し穴や、縄文時代中期小竪穴状遺構、古墳時代後期円墳・土壙墓、また、古墳時代～奈良・平安時代にわたる竪穴住居跡・掘立柱建物跡・土坑・溝、及び中近世溝を確認し、下層においては遺物検出地点4カ所を確認した。（小川浩一）



にし の しも だ 19. 西野下田遺跡

事業名 店舗建設に伴う埋蔵文化財調査

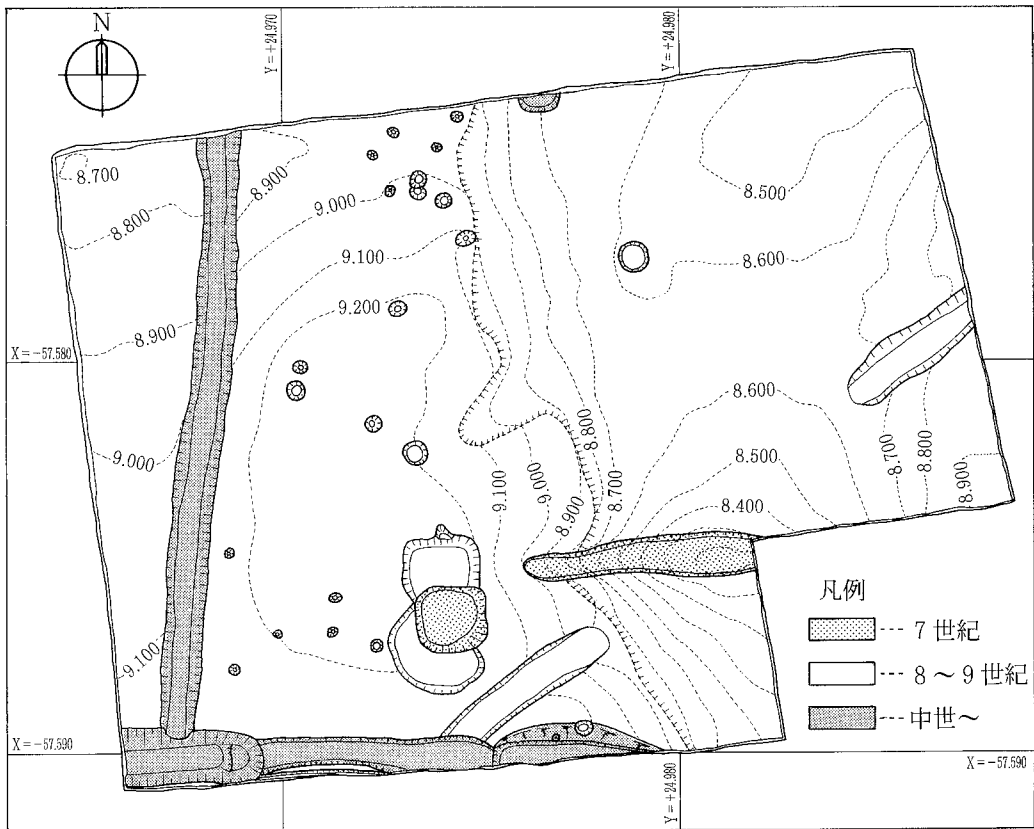
所在地 市原市西野字下田249～1 他

調査期間 平成7年12月1日～平成7年12月27日

調査面積 355㎡（本調査）

調査概要 西野下田遺跡は、養老川下流域左岸の微高地上、標高8～9mに立地している。

養老川まで約300mの地点であり、北方2kmの台地上には史跡上総国分寺跡等が知られている。また、下田遺跡の西側隣接地区は大字「小折」であり、この一帯に古代海上郡家が所在していたものと考えられている。今回の調査は、確認調査の結果を受けて、店舗の建物部分のみを対象として実施した。調査の結果、7世紀代の土壌1基、8～9世紀の小径2条並びにピット群、中世以降の溝2条などが発見された。出土遺物では、供膳形態に杯・高台付杯・盤等が見られ7世紀代に東海系、9世紀代に下総南部や常陸からの搬入が認められる。また、瓶類には灰釉陶器や緑釉陶器が少量ながら含まれている。瓦は小片一点で、斜格子のタタキを凸面に施すものであった。中世陶器類には内耳の焙烙が認められた。なお、遺跡の広がりや事業地全域を含むものであった。確認調査の結果は、既刊の報告書に依られたい。 （田所 真）



西野下田遺跡遺構配置図

20. ^{こおりもと}郡本遺跡群 ^{ふるこう}(古甲遺跡 第4次)

事業名 平成7年度 上総国府推定地確認調査委託

所在地 市原市郡本2丁目351番地 他

調査期間 平成8年3月6日～平成8年3月29日

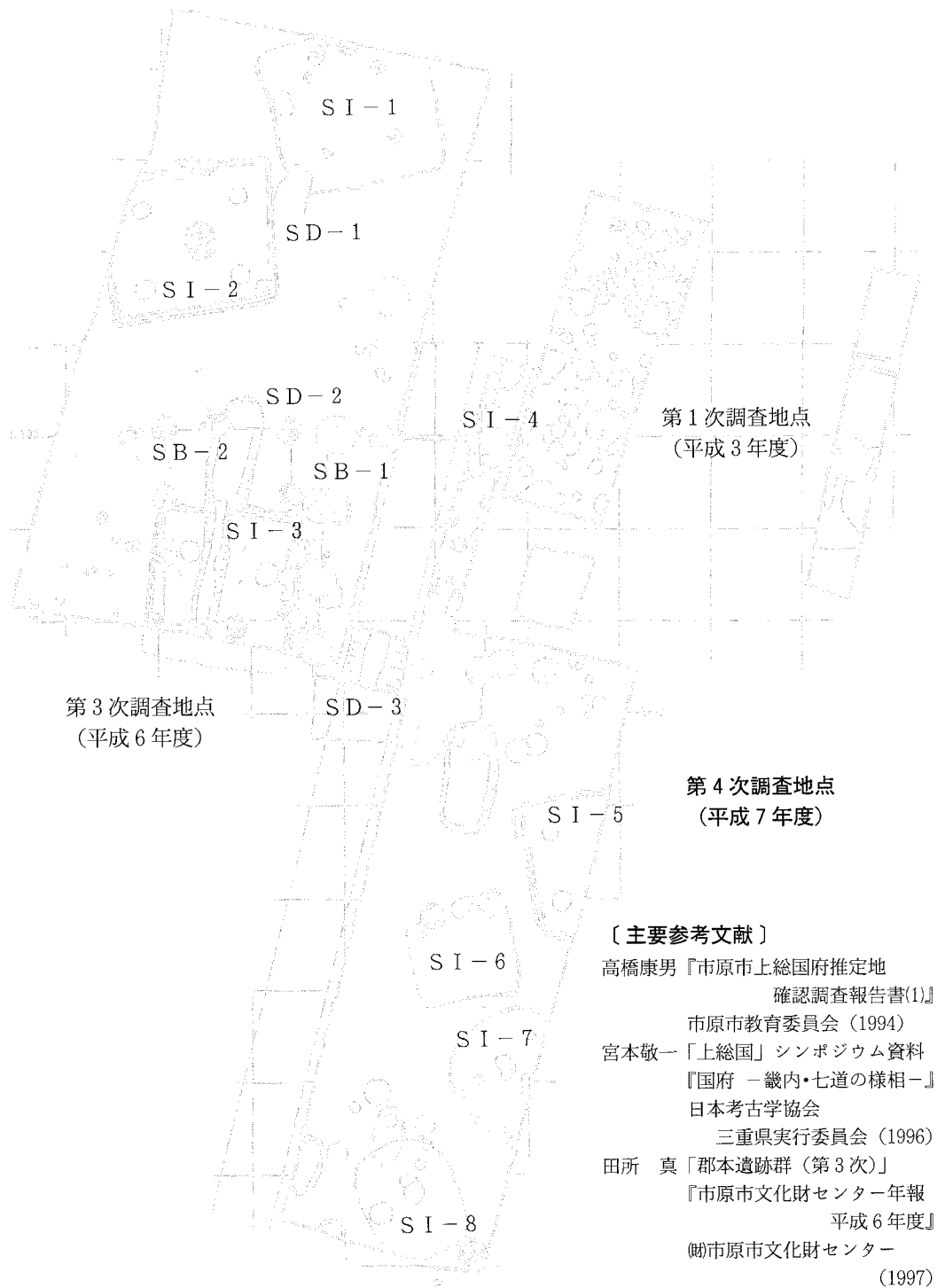
調査面積 130㎡ (確認調査)

調査概要 平成3年度より古甲遺跡で実施している「上総国府推定地確認調査」の第4次調査である。本年度の調査は、平成6年度に確認した掘立柱建物跡(SB-1)の規模と構造ならびに性格等を、明らかにすることを目標とした。調査の結果、SB-1については、桁行四間(八尺等間)の南北棟であることが明らかとなった。梁行の柱間は六尺等間であろう。三間・四間の側柱建物と考えたが、四間一面の可能性も否定できない。掘方から、磚が出ている。屋蓋部は切妻であろうか。瓦は葺かれていない。南北に軒を並べる建物も発見されなかった。

竪穴式建物跡は、弥生時代後期2軒(SI-7・8)、奈良時代2軒(SI-4・5)、平安時代1軒(SI-6)であった。奈良時代の建物は、SI-1、SI-2と振れが近い。また、調査区北西側で確認した溝SD-3は、掘込みの深い断面逆台形の区画溝である。SD-2と平行しており、現況の地割に沿っている。平安時代後期以降の所産であろう。(田所 真)



第1図 古甲遺跡の地形と調査地点



第2図 古甲遺跡(第4次)遺構配置図

IV 平成7年度 受贈図書一覧

書名	寄贈者	受入日
平成5年度(財)向日市埋蔵文化財センター 年報 都城6	(財)向日市埋蔵文化財センター	7.4.5
(財)瀬戸市埋蔵文化財センター調査報告第10集	(財)瀬戸市埋蔵文化財センター	〃
平成6年度千葉市遺跡発表会要旨	(財)千葉市文化財調査協会	〃
燎東古墳	吉舎町教育委員会	〃
関東の四紀No.3~18	近藤 敏	〃
倉敷埋蔵文化財センター年報1 1993年度	倉敷市教育委員会	〃
東金市内遺跡発掘調査報告書	東金市教育委員会	〃
飛鳥資料館図録第27冊 古代の形 飛鳥藤原の文様を追う	奈良国立文化財研究所飛鳥資料館	〃
平成6年度市内遺跡発掘調査報告書	柏市教育委員会	〃
柏市埋蔵文化財調査報告書27	同上	〃
福岡市埋蔵文化財センター年報第13号 平成5(1993)年度	福岡市埋蔵文化財センター	〃
(財)山武郡市文化財センター発掘調査報告書第18集	(財)山武郡市文化財センター	7.4.6
福島市埋蔵文化財報告書第58~65集	(財)福島市振興公社	〃
榛原町文化財調査概要9・12・13	榛原町教育委員会	〃
マンガ日本の歴史1	田所 真	〃
土偶シンポジウム3 栃木大会関東地方後期の土偶(山形土偶の終焉まで)	八重樫純樹	〃
千葉大学文学部考古学研究報告第1冊	麻生 優	〃
川山遺跡II	(財)浜松市文化協会	7.4.7
社口遺跡	同上	〃
西鴨江中平遺跡2	同上	〃
笠井町下組遺跡	同上	〃
宮脇野際遺跡3	同上	〃
我孫子市埋蔵文化財小報第11集	我孫子市教育委員会	〃
佐原市内遺跡発掘調査概報IX	佐原市教育委員会	〃
群馬県利根郡昭和村埋蔵文化財発掘調査報告書第4集	山武考古学研究所	〃
要害城跡	同上	〃
古高覚宗遺跡	同上	〃
飯塚西金井遺跡	同上	〃
天神I遺跡 天神II遺跡 西原遺跡 松葉慈学寺遺跡	同上	〃
保美地区遺跡群発掘調査報告書	同上	〃
下大類蟹沢遺跡	同上	〃
井上麁寺跡発掘調査報告書	同上	〃
宮崎城	同上	〃
久能西原遺跡発掘調査報告書	同上	〃
藤田荻久保遺跡発掘調査報告書	同上	〃
和田遺跡	同上	〃
岡山理科大学自然科学研究所研究報告第20号	岡山理科大学自然科学研究所	〃
苦小牧市柏原27・ニナルカ・静川5・6遺跡発掘調査概要報告書	苦小牧市埋蔵文化財調査センター	〃
苦小牧の埋蔵文化財No.6・7	同上	〃
苦小牧市埋蔵文化財調査センター概要No.8	同上	〃
(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第145・146・149・157・159集	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団	7.4.10
国立歴史民俗博物館博物館資料調査報告書6	国立歴史民俗博物館	〃
上総市原第9号	市原市文化財研究会	〃
平成6年度成田市内遺跡発掘調査報告書	成田市教育委員会	〃
苦小牧市美沢東遺跡群発掘調査概要報告書II	苦小牧市埋蔵文化財調査センター	〃

書名	寄贈者	受入日
浜松市博物館館報Ⅷ	浜松市博物館	7.4.10
博物館資料集4 くらしの中のわら製品	同上	"
上中丸遺跡 上・下	相模原市教育委員会	7.4.11
田名塩田原遺跡群 田名塩田原遺跡	同上	"
古淵B遺跡	同上	"
神奈川県相模原市東原遺跡	同上	"
勝坂遺跡第45次調査	同上	"
神奈川県相模原市下原遺跡	同上	"
オヒノモリ塚	同上	"
相模原市埋蔵文化財調査報告18・19	同上	"
勝坂遺跡の調査 その回顧と展望	同上	"
神奈川県相模原市下中丸遺跡	同上	"
矢掛・久保遺跡	同上	"
田名塩田原遺跡群 田名塩田原花ヶ谷戸遺跡	同上	"
植生史研究第3巻第1号	田所 真	7.4.12
第21回古代城柵官衙遺跡検討会資料	同上	"
平泉郷土館図録第Ⅳ冊 平泉の埋蔵文化財	同上	"
京都府埋蔵文化財情報第55号	（財）京都府埋蔵文化財調査研究センター	7.4.13
根岸遺跡	いわき市教育委員会	"
各務原市資料調査報告書第18・19号	各務原市歴史民俗資料館	"
鎌ヶ谷市埋蔵文化財調査報告第10集	鎌ヶ谷市教育委員会	"
高槻市文化財調査報告書第18冊	高槻市立埋蔵文化財調査センター	"
山武町内遺跡発掘調査報告書	山武町教育委員会	"
千葉県指定文化財第5集 平成6年度	千葉県教育委員会	"
津山市埋蔵文化財発掘調査報告第54～56集	津山市教育委員会	"
年報津山弥生の里第2号 平成5年度	同上	"
南山大学人類学博物館館報第26～32号	南山大学人類学博物館	"
人類学博物館紀要第14号	同上	"
千葉県印旛郡白井町町内遺跡発掘調査報告書	白井町教育委員会	"
富津市内遺跡発掘調査報告書	富津市教育委員会	"
芝山町遺跡発掘調査報告書	芝山町教育委員会	7.4.14
研究連絡誌第40・42号	（財）千葉県文化財センター	7.4.17
流山市埋蔵文化財調査報告Vol.21	流山市教育委員会	7.4.18
文化財センター調査報告書第1～4冊	（財）東広島市教育文化振興事業団	7.4.19
高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第3・4冊	（財）香川県埋蔵文化財調査センター	7.4.21
世田谷区史料叢書第10巻	世田谷区教育委員会	"
角田市文化財調査報告書第15集	角田市教育委員会	7.4.24
平成6年度君津市内遺跡発掘調査報告書	君津市教育委員会	"
中井町No.41遺跡	中井町遺跡調査団	"
苫小牧市美沢10遺跡発掘調査概要報告書	苫小牧市埋蔵文化財調査センター	"
苫小牧市の埋蔵文化財No.8	同上	"
文部省科学研究費補助金重点領域研究 遺跡探査No.13	奈良国立文化財研究所	"
文部省科学研究費補助金重点領域研究 遺跡探査No.1～No.10合冊	同上	"
えびの市埋蔵文化財調査報告書第15集	えびの市教育委員会	7.4.26
四街道市内遺跡発掘調査報告書	四街道市教育委員会	"
シリーズ郷土小山の古墳を巡る2	小山市立博物館	"
第30回企画展 かがみよ鏡 銅鏡の歴史と美	同上	"

書名	寄贈者	受入日
千葉県立安房博物館研究紀要2	千葉県立安房博物館	7.4.26
大阪府立近つ飛鳥博物館図録5	大阪府立近つ飛鳥博物館	"
平成6年度野田市市内遺跡発掘調査報告	野田市教育委員会	"
鳥居松遺跡	林原利明	"
仲依知坂上遺跡	同上	"
杉久保蓮谷遺跡	同上	"
杉久保東谷遺跡	同上	"
八州台遺跡	同上	"
飯山古松上遺跡	同上	"
愛甲宮前遺跡	同上	"
愛甲宮前遺跡第2地区	同上	"
及川十二天遺跡	同上	"
久本梅之園遺跡	同上	"
千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告 平成6年度	八千代市教育委員会	7.4.27
橋津組大庄屋日記(三)	別府大学付属博物館	"
豊橋市埋蔵文化財調査報告書第23~25集	豊橋市教育委員会	"
横須賀市文化財調査報告書第28集	横須賀市教育委員会	7.4.28
東谷横穴墓群発掘調査報告書	同上	"
横須賀市埋蔵文化財調査報告書第2・3集	同上	"
歴史の道調査報告書第3・4集	近藤 敏	"
市史調査報告書第1~3集	同上	"
百花台1993	同上	"
房総における歴史時代土器の研究	田所 真	"
柏市埋蔵文化財調査報告書28	柏市遺跡調査会	"
大町遺跡 平成4・5年度発掘調査報告書	八王子市教育委員会	"
平成3年度京都市埋蔵文化財調査概要	財京都市埋蔵文化財研究所	7.5.1
京都市内遺跡立会調査概報 平成6年度	同上	"
京都市内遺跡試掘調査概報 平成6年度	同上	"
京都市内遺跡発掘調査概報 平成6年度	同上	"
古代学研究所研究報告第4輯	財古代学協会	"
琵琶湖周辺の6世紀を探る	京都大学文学部考古学研究室	"
飯山上ノ原遺跡調査報告書	国道412号線遺跡発掘調査団	"
蟹子沢遺跡	秋田市教育委員会	"
袖ヶ浦市史基礎資料調査報告書1~5	袖ヶ浦市教育委員会	"
袖ヶ浦市内遺跡発掘調査報告書	同上	"
栃木県立なす風土記の丘資料館年報第2号 平成5年度版	栃木県立なす風土記の丘資料館	"
八王子の歴史と文化第7号	八王子市郷土資料館	"
郷土資料館資料シリーズ第34号	同上	"
八王子市郷土資料館年報 平成5年度	同上	"
名古屋博物館研究紀要第18巻	名古屋博物館	"
讃岐 あゆみ・わざ・ちえ	財香川県埋蔵文化財調査センター	7.5.8
財団法人香川県埋蔵文化財調査センター研究紀要Ⅲ	同上	"
下戸塚遺跡の調査第3部 古代編	早稲田大学校地埋蔵文化財調査室	"
松戸市文化財調査報告第21集	松戸市教育委員会	7.5.9
郷土玩具と遊具	成田山霊光館	"
筑波大学先史学・考古学研究第6号	筑波大学	"
西安半坡	田所 真	"

書名	寄贈者	受入日
周原	田所 真	7.5.9
西安碑林	同上	"
東京大学文学部考古学研究室研究紀要第13号	東京大学文学部考古学研究室	"
京都府遺跡調査報告書第1冊	〇京都府埋蔵文化財調査研究センター	7.5.12
京都府遺跡調査概報第60・61冊	同上	"
新潟県埋蔵文化財調査事業団年報 平成6年度 研究紀要1995	〇新潟県埋蔵文化財調査事業団	"
新潟県埋蔵文化財調査報告書第66・67集	同上	"
熊本大学文学部考古学研究室活動報告29	熊本大学文学部考古学研究室	"
広島県中世城館遺跡総合調査報告書第3集	広島県教育委員会	"
中世城館遺跡保存整備事業発掘調査報告5 第1回遺跡発表会要旨	〇同上	"
弥生の“いくさ”と環濠集落 大塚・歳勝土遺跡の時代	〇君津郡市文化財センター	7.5.15
足守藩武家屋敷跡	横浜市歴史博物館	"
東条地区遺跡調査会埋蔵文化財調査報告第1集	岡山市教育委員会	"
中原条里跡	鴨川市教育委員会	"
御代田町埋蔵文化財発掘調査報告書第20・21集 調査研究報告第8号	同上	"
平成6年度市川市内遺跡発掘調査報告	近藤 敏	"
西紀、丹南町文化財調査報告第15集	埼玉県さきたま資料館	"
千歳市文化財調査報告書X X	市川市教育委員会	"
泉南市文化財調査報告書第27集	西紀、丹南町教育委員会	"
第7回歴史の華ひらく泉南シンポジウム 古代の技術革新	千歳市教育委員会	"
玉津田中遺跡発掘調査報告書Ⅱ	泉南市教育委員会	"
日本窯業史研究所報告第44・45冊	同上	"
武蔵大学人文学会雑誌第26巻4号	淡神文化財協会	"
伊知波良2・4	日本窯業史研究所	"
第1回企画展 汽車土瓶	武蔵大学人文学会	"
遺跡調査室年報Ⅶ	米田耕之助	"
多肥松林遺跡・鹿伏・中所遺跡	窯業史博物館	"
平池南遺跡 平成6年度	立正大学文学部考古学研究室	"
高松城跡 平成6年度	〇香川県埋蔵文化財調査センター	7.5.18
県道関係埋蔵文化財発掘調査概報 平成6年度	同上	"
空港跡地遺跡発掘調査概報 平成6年度	同上	"
多肥松林遺跡 平成6年度	同上	"
天満本願寺跡発掘調査報告Ⅰ	〇大阪市文化財協会	"
神成松遺跡発掘調査報告書	玉川文化財研究所	"
本入遺跡第2次発掘調査報告書	同上	"
広島県立歴史博物館展示図録第14冊	広島県立歴史博物館	"
琵琶湖博物館開設準備室研究調査報告第4号	滋賀県教育委員会	"
庄原市文化財調査報告3	庄原市教育委員会	"
古代第99号	早稲田大学考古学会	"
千葉県重要古墳群測量調査報告書	千葉県教育委員会	7.5.22
鳩山町埋蔵文化財調査報告第17集	鳩山町教育委員会	"
中尾遺跡群発掘調査報告書Ⅰ	木更津市教育委員会	"
木更津市内遺跡発掘調査報告書	同上	"
桜ヶ丘遺跡群発掘調査報告書Ⅰ	同上	"

書名	寄贈者	受入日
請西遺跡群発掘調査報告書VI	木更津市教育委員会	7.5.22
千束台遺跡群発掘調査報告書I	同上	"
向日市埋蔵文化財調査報告書第39集	(財)向日市埋蔵文化財センター	7.5.23
一宮市埋蔵文化財調査報告書I	一宮市博物館	"
平成6年度企画展 漁の技術史 木曾川から伊勢湾へ	同上	"
三田市文化財情報 平成6年度合冊号	三田市教育委員会	"
(財)瀬戸市埋蔵文化財センター調査報告第9集	(財)瀬戸市埋蔵文化財センター	7.5.26
千葉県史研究第3号	(財)千葉県史料研究財団	7.5.29
長生郡市文化財センター年報No.8 平成4年度	(財)長生郡市文化財センター	"
(財)長生郡市文化財センター調査報告第21~28集	同上	"
徳増下谷遺跡	同上	"
文化財字治'94	宇治市教育委員会	"
宇治市埋蔵文化財発掘調査概報第27・29集	同上	"
千葉県立中央博物館研究報告第4巻第1号	千葉県立中央博物館	"
枚方市文化財年報14 1992年度分	枚方市文化財研究調査会	"
落川・一の宮遺跡調査略報Ⅲ	落川・一の宮遺跡(日野3.2.7号線)調査会	"
長岡京市文化財調査報告書第33冊	長岡京市教育委員会	7.5.30
静岡県埋蔵文化財調査研究所年報X I	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所	7.5.31
伊勢原市文化財調査報告書第17集	伊勢原市教育委員会	7.6.2
各務原市文化財調査報告書第17号	各務原市埋蔵文化財調査センター	"
葛飾区遺跡調査会発掘調査報告書第32集	葛飾区遺跡教育委員会	"
国立市文化財調査報告第36・38・39集	国立市教育委員会	"
山王台遺跡	山武町教育委員会	"
帝京大学山梨文化財研究所研究報告第6集	山梨文化財研究所	"
尾張藩上屋敷跡遺跡発掘調査概要Ⅲ	(財)東京都教育文化財団東京都埋蔵文化財センター	7.6.5
汐留遺跡 発掘調査概要I	同上	"
県宮かんがい排水事業関連発掘調査報告書X 5	滋賀県教育委員会	"
北萱遺跡発掘調査報告書	同上	"
穴太遺跡発掘調査報告書I	同上	"
は場整備関係遺跡発掘調査報告書XIV 3・XXI 3・XXI 4	同上	"
県道竜王石部線拡張工事に伴う岩屋古墳試掘調査報告書	同上	"
早稲田大学本庄校地文化財調査報告3	早稲田大学本庄校地文化財調査室	"
平成6年度八千代市埋蔵文化財調査年報	八千代市教育委員会	"
明治大学考古学博物館館報No.10	明治大学考古学博物館	"
伊勢国分寺・国府跡2	鈴鹿市教育委員会	"
鈴鹿市埋蔵文化財調査年報Ⅱ	同上	"
東有馬遺跡発掘調査報告書	玉川文化財研究所	7.6.8
小田原城三の丸東堀第2地点発掘調査報告書	同上	"
千葉県立大根博物館収蔵資料目録4	千葉県立大根博物館	"
平成7年度特別展 天狗飛来 利根川下流域と天狗信仰	同上	"
平成6年度年報	同上	"
千葉県立大根博物館調査研究報告第6号	同上	"
明治時代の水産絵図	大田区立郷土博物館	"
上宿遺跡	八王子市教育委員会	"
名古屋大学文学部研究論集122史学41 考古学抜刷第10集	名古屋大学文学部考古学研究室	"
神戸市東灘区本北山遺跡	六甲山麓遺跡調査会	"
國學院大學文学部考古学実習報告第24~26集	國學院大學文学部考古学研究室	"

書名	寄贈者	受入日
松戸市文化財調査報告第22集	松戸市教育委員会	7.6.13
仙台市文化財調査報告書第180・189・193～195集	仙台市教育委員会	〃
市内遺跡報告書第7冊目	千葉市教育委員会	〃
史叢第53号	日本大学史学会	〃
茂原市立木高橋家文書「御用留」第3集	茂原市立図書館	〃
柏市埋蔵文化財調査報告書29	柏市教育委員会	7.6.14
長野県埋蔵文化財センター年報10・11	㈱長野県埋蔵文化財センター	7.6.15
長野県立歴史館閉館記念企画展図録 赤い土器のクニ	同上	〃
神奈川県埋蔵文化財調査報告37	神奈川県教育委員会	〃
大阪市立博物館報No.34	大阪市立博物館	〃
弥杉・上ノ台遺跡	東海大学校地内遺跡調査団	〃
東海大学校地内遺跡調査団報告5	同上	〃
平城京東市跡推定地の調査XⅢ	奈良市教育委員会	〃
奈良市埋蔵文化財調査概要報告書 平成6年度	同上	〃
奈良市埋蔵文化財センター紀要1994	同上	〃
日本考古学年報46 1993年度版	半田堅三	〃
㈱群馬県埋蔵文化財調査事業団報告第178集	㈱群馬県埋蔵文化財調査事業団	7.6.19
研究紀要12	同上	〃
東京都埋蔵文化財センター年報14	㈱東京都教育文化財団東京都埋蔵文化財センター	〃
東京都埋蔵文化財センター研究論集XⅢ・XⅣ	同上	〃
東京都埋蔵文化財センター調査報告第18・19集	同上	〃
資料目録7	同上	〃
浦和市遺跡調査会報告書第166・168・184・188～190・193・196集	浦和市遺跡調査会	〃
鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書11	鎌倉市教育委員会	〃
光ヶ丘塚群1号塚・2号塚測量調査報告書	高橋康男	〃
柏市埋蔵文化財調査報告書17	同上	〃
高槻市文化財年報 平成5年度	高槻市立埋蔵文化財調査センター	〃
マンガで案内するハニワ工場公園	同上	〃
高槻市文化財調査概要XⅩⅠ	同上	〃
高槻市文化財調査報告書第19冊	同上	〃
志木市の文化財第21集	志木市教育委員会	〃
袖ヶ浦市史料目録1・2	袖ヶ浦市教育委員会	〃
袖ヶ浦市史研究第3号	同上	〃
のじぎく文化財だより第36号	㈱のじぎく文化財保護研究財団	7.6.26
大阪府下埋蔵文化財研究会(第32回)資料	㈱大阪府文化財調査研究センター	〃
群馬県立歴史博物館調査報告書第6号	群馬県立歴史博物館	〃
群馬県立歴史博物館所蔵資料目録 考古・考古Ⅱ	同上	〃
図録 日本のかがみ 生活と信仰の道具	成田靈光館	〃
塩津山1号墳	島根県教育委員会	〃
北区埋蔵文化財調査報告第16集	東京都北区教育委員会	〃
平取町カンカン2遺跡	平取町教育委員会	〃
平取町文化財調査報告書Ⅰ・Ⅱ	同上	〃
いわき市教育文化事業団研究紀要第6号	㈱いわき市教育文化事業団	7.6.28
いわき市教育文化事業団年報5 平成5年度	同上	〃
福島県文化財調査報告書第309集	同上	〃
㈱群馬県埋蔵文化財調査事業団報告書第168・180集	㈱群馬県埋蔵文化財調査事業団	〃
北陸新幹線地域埋蔵文化財発掘調査終了図録 レールの下の歴史	同上	〃

書名	寄贈者	受入日
㈩栃木県文化振興事業団年報 平成5年度版	㈩栃木県文化振興事業団	7.6.28
福知山市文化財調査報告書第28～30集	福知山市教育委員会	〃
かながわ考古学財団調査報告1～4	㈩かながわ考古学財団	7.6.29
甕る池子の遺跡	同上	〃
かながわ考古学財団年報No.1 平成5年度	同上	〃
㈩山武郡市文化財センター発掘調査報告書第24・27集	㈩山武郡市文化財センター	〃
㈩山武郡市文化財センター年報No.10	同上	〃
東釧路第3遺跡・縁ヶ岡1遺跡	釧路市埋蔵文化財調査センター	7.7.3
釧路市東釧路貝塚調査報告書	同上	〃
釧路市北斗遺跡V	同上	〃
草戸千軒町遺跡発掘調査報告Ⅲ	広島県草戸千軒町遺跡調査研究所	〃
千葉県東葛飾郡沼南町金山宮後原遺跡	沼南町教育委員会	〃
沼南町埋蔵文化財小報第10・11集	同上	〃
縄文土器のつくり方	千葉県立加曾利貝塚博物館	〃
貝塚博物館紀要第22号	同上	〃
松本市文化財調査報告No.116～120	松本市教育委員会	〃
津南町文化財調査報告書第16・17輯	津南町教育委員会	〃
平成6年度瀬戸市埋蔵文化財センター年報	㈩瀬戸市埋蔵文化財センター	7.7.4
平成6年度神奈川県指定史跡市ヶ尾横穴古墳群(B群)保存整備事業報告書	横浜市教育委員会	〃
㈩印旛郡市文化財センター発掘調査報告書第66・67・71・79・81・88・89・94・97・101・103・105集	㈩印旛郡市文化財センター	7.7.7
京都府遺跡調査概報第65冊	㈩京都府埋蔵文化財調査研究センター	〃
ガイドブック歴史の里いしおか	石岡市教育委員会	〃
石岡市の遺跡	同上	〃
㈩群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第184・186集	㈩群馬県埋蔵文化財調査事業団	7.7.10
埼玉県立埋蔵文化財センター年報4	埼玉県立埋蔵文化財センター	〃
所沢市埋蔵文化財調査報告書第1～5集	所沢市教育委員会	〃
西本6号遺跡発掘調査報告書	淡神文化財協会	〃
長野県立歴史館研究紀要第1号	長野県立歴史博物館	〃
㈩ひたちなか市文化・スポーツ振興公社文化財調査報告第11集	㈩ひたちなか市文化・スポーツ振興公社	7.7.11
栃木県文化振興事業団埋蔵文化財センター年報第5号	㈩栃木県文化振興事業団埋蔵文化財センター	〃
研究紀要第3号	同上	〃
横須賀市埋蔵文化財調査報告書第4集	横須賀市教育委員会	〃
横須賀市文化財調査報告書第29集	同上	〃
神奈川県指定史跡吉井貝塚を中心とした遺跡史跡整備報告書	同上	〃
市立市川考古博物館年報第21・22号	市立市川考古博物館	〃
千葉県立総南博物館年報2	千葉県立総南博物館	〃
日立市文化財調査報告第34・35集	日立市教育委員会	〃
向日市埋蔵文化財調査報告書第40集	㈩向日市埋蔵文化財センター	7.7.14
新潟県埋蔵文化財調査報告書第65・69・70集	㈩新潟県埋蔵文化財調査事業団	〃
若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書 鎌倉市小町1丁目81番8地点	鎌倉考古学研究所	〃
若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書 由比ヶ浜1丁目129番5地点	同上	〃
長谷小路周辺遺跡由比ヶ浜3丁目258番1地点 No.236	同上	〃
平成5年度鎌倉市内傾斜地崩壊対策事業に伴う発掘調査報告書	同上	〃
研究紀要3	港区教育委員会	〃
常設展示解説 上田地方の古代文化	上田市立信濃国分寺資料館	〃
青山史学第14号	青山学院大学文学部史学科研究室	〃
千葉県館山市大寺山洞穴 第2次発掘調査概報	千葉大学文学部考古学研究室	〃

書名	寄贈者	受入日
港区近世都市江戸関連遺跡発掘調査報告書19	東京都港区教育委員会	7.7.14
年報14 平成6年度	(財)茨城県教育財団	7.7.20
特別展 駿河湾の漁船	沼津市歴史民俗資料館	〃
研究ノート4号	同上	〃
茨城県教育財団文化財調査報告第91～99集	同上	〃
冠遺跡群IV 1994年度の調査	広島県教育委員会	〃
広島県埋蔵文化財保護行政資料6	同上	〃
倉敷市埋蔵文化財発掘調査報告第4集	倉敷市教育委員会	〃
文部省科学研究費補助金重点領域研究 遺跡探査No.14	奈良国立文化財研究所	〃
京都府遺跡調査概報第62冊	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	7.7.25
港区近世都市江戸関連遺跡発掘調査報告20-1	港区立港郷土資料館	〃
水沢市埋蔵文化財調査センター調査報告書第1～4集	水沢市埋蔵文化財調査センター	〃
平成5年度大阪市内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書	大阪市教育委員会	〃
大阪市文化財地図	同上	〃
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第177・192集	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	7.7.28
歴史学12号	高山歴史学研究所	〃
東京都江戸東京博物館調査報告書第1集	東京都江戸東京博物館	〃
平成6年度調査埋蔵文化財展 レトロ・レトロの展覧会	(財)滋賀県文化財保護協会	7.7.31
静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第16・32・36・56・58・59集	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所	〃
春季特別展図録 北陸の縄文文化	同上	〃
市立市川考古博物館年報No.14	市立市川考古博物館	〃
テーマ展 災害と村の暮らし	調布市郷土博物館	〃
第13回特別展 弥生の鉄文化とその世界	北九州市立考古博物館	〃
京都府埋蔵文化財情報第56号	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	7.8.2
松山市文化財調査報告書第47集	(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター	〃
松戸市立博物館年報第1号	松戸市立博物館	〃
土浦市立博物館紀要第6号	土浦市立博物館	〃
中里遺跡3～6	中里遺跡調査会	7.8.3
第6回「考古学と中世史研究」シンポジウム 中世日本列島の地域性	帝京大学山梨文化財研究所	〃
竹橋門 江戸城北丸竹橋門地区発掘調査報告	東京国立近代美術館遺跡調査団	〃
中村宿毛道路埋蔵文化財発掘調査概報I・II	(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター	7.8.4
研究紀要第1号	同上	〃
高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第1・3・11・15・16・19・20集	同上	〃
高知県埋蔵文化財センター年報2・3	同上	〃
高知県埋蔵文化財調査報告書第37集	高知県教育委員会	〃
高知県大月町埋蔵文化財調査報告書第2集	大月町教育委員会	〃
島根県生産遺跡分布調査報告書Ⅲ	田所 真	〃
土佐山田町埋蔵文化財報告書第11・14集	土佐山田町教育委員会	〃
東津野村埋蔵文化財発掘調査報告書第1集	東津野村教育委員会	〃
文化財学報第7～13集	奈良大学文学部文化財学科	〃
本山町埋蔵文化財発掘調査報告書第7集	本山町教育委員会	〃
野市町埋蔵文化財調査報告書第3集	野市町教育委員会	〃
下野国分寺跡IV	栃木県教育委員会	7.8.7
栃木県埋蔵文化財調査報告第145・153・155～159・161・163～165・167集	同上	〃
埋蔵文化財年報6	(財)富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所	7.8.11
富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告第6集	同上	〃
浦和市内遺跡発掘調査報告書第23集	浦和市教育委員会	〃

書名	寄贈者	受入日
長野市立博物館紀要第3号	長野市立博物館	7.8.11
働和歌山県文化財センター年報1994	働和歌山県文化財センター	7.8.18
松戸市文化財調査報告書第23集	松戸市教育委員会	"
大阪府文化財普及啓発資料シリーズ第2冊	大阪府教育委員会	"
八王子市埋蔵文化財年報 平成6年度	八王子市教育委員会	"
八王子市文化財調査報告書3	同上	"
埋蔵文化財発掘調査報告書第55～58集	働愛媛県埋蔵文化財調査センター	7.8.21
財団法人八尾市文化財調査研究会報告45～47	働八尾市文化財調査研究会	"
文化財講座記録集4	同上	"
平成6年度働八尾市文化財調査研究会事業報告	同上	"
四日市市文化財保護年報5 平成5年度	四日市市教育委員会	"
四日市市埋蔵文化財調報告19	同上	"
多摩地区所在古墳確認調査報告書	東京都教育生涯学習部	"
京都府遺跡調査概報第63冊	働京都府埋蔵文化財調査研究センター	7.8.28
働埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第147・148・150～156・158・160	働埼玉県埋蔵文化財調査事業団	"
研究紀要第11号	同上	"
埼玉県埋蔵文化財調査事業団年報15	同上	"
神戸市東灘区本山中野遺跡	六甲山麓遺跡調査会	"
能蔵寺跡	鎌倉市教育委員会	7.8.29
甘繩神社遺跡群発掘調査報告書 鎌倉市長谷1丁目271番10	同上	"
社団法人石川県埋蔵文化財保存協会年報5 平成5年度	働石川県埋蔵文化財保存協会	7.8.30
曾祢C遺跡発掘調査報告書	同上	"
財団法人香川県埋蔵文化財調査センター年報 平成6年度	働香川県埋蔵文化財調査センター	7.9.1
仙台市文化財調査報告書第200集	仙台市教育委員会	"
千葉県立房総風土記の丘年報17 平成5年度	千葉県立房総風土記の丘	"
飛鳥・藤原宮発掘調査概報25	奈良国立文化財研究所	"
のじぎく文化財だより第37号	働のじぎく文化財保護研究財団	7.9.5
高月町埋蔵文化財調査報告書第3集	高月町教育委員会	"
君津郡市文化財センター年報No.12 平成5年度	働君津郡市文化財センター	7.9.6
事業報告Ⅲ・Ⅳ	働香取郡市文化財センター	"
働香取郡市文化財センター調査報告書第14・26・28・30～32集	同上	7.9.7
千葉県埋蔵文化財発掘調査抄報昭和57・59・60・62年度	近藤 敏	"
戸田市史研究第2・3号	同上	"
東国の国分寺 国家鎮護の寺々	上田市立信濃国分寺資料館	"
千葉県埋蔵文化財発掘調査抄報昭和57・59・61・平成元～5年度	千葉県教育庁文化課	"
埋蔵文化財調査報告10 平成6年度	練馬区教育委員会	"
特別展 大昔の苦小牧	苦小牧市埋蔵文化財調査センター	7.9.8
愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第54・57～60・62・64集	働愛知県埋蔵文化財センター	7.9.13
年報 平成6年度	同上	"
働群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第172集	働群馬県埋蔵文化財調査事業団	"
資料管理取扱要領 オンライン対応初版	同上	"
財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要第3輯	働瀬戸市埋蔵文化財センター	"
愛知県埋蔵文化財情報10	愛知県教育委員会・働愛知県埋蔵文化財センター	"
京都府遺跡調査概報第64冊	働京都府埋蔵文化財調査研究センター	7.9.18
紀要第8号	働滋賀県文化財保護協会	"
群馬町埋蔵文化財調査報告第37・39・41集	群馬町教育委員会	"
平成7年度東京都埋蔵文化財センター要覧	働東京都教育文化財団東京都埋蔵文化財センター	7.9.19

書 名	寄 贈 者	受 入 日
第5回鎌倉市遺跡調査・研究発表会発表要旨	鎌倉考古学研究所	7.9.19
財団法人横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター年報5	財団法人横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター	7.9.22
港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告XVI・XVII	同 上	〃
時田遺跡発掘調査報告書	玉川文化財研究所	〃
太井己遺跡発掘調査報告書608-3地区及び627-1地区	同 上	〃
小田原城八幡山古郭本曲輪第Ⅲ地点発掘調査報告書	同 上	〃
大宮市文化財調査報告第38・48～53集	大宮市教育委員会	〃
鳥取県教育文化財団調査報告書37～40・42	財団法人鳥取県教育文化財団	7.9.26
旧高田領取調帳データベース データベースれきはく検索の手引き	国立歴史民俗博物館	〃
桜井市立埋蔵文化財センター発掘調査報告書第7・8・11～15集	桜井市立埋蔵文化財センター	〃
桜井市内埋蔵文化財1992年度発掘調査報告1	同 上	〃
桜井市内埋蔵文化財1991年度発掘調査報告3	同 上	〃
纏向石塚古墳 範囲確認調査(第4次)概報	同 上	〃
森本六爾氏生誕90周年記念『二粒の粳』展	同 上	〃
千葉県中近世城跡研究調査報告書第14集	田所 真	〃
山形県埋蔵文化財センター調査報告書第19～29集	財団法人山形県埋蔵文化財センター	7.9.28
平成4年度京都市埋蔵文化財調査概要	財団法人京都市埋蔵文化財研究所	7.10.3
財団法人山武郡市文化財センター発掘調査報告書第17集	財団法人山武郡市文化財センター	〃
財団法人栃木県文化振興事業団年報 平成6年度版	財団法人栃木県文化振興事業団	〃
屋敷田Ⅱ遺跡	津南町教育委員会	〃
武蔵国関連遺跡調査報告 日綱地区	日本製鋼所遺跡調査会	〃
村之内Ⅱ・Ⅲ遺跡 高台・中谷井遺跡	明野村教育委員会	〃
第3回企画展 豊かな恵みの中で なすの縄文人	栃木県立なす風土記の丘資料館	7.10.6
第31回企画展お守り 暮らしにいきづく信仰の形	小山市立博物館	7.10.9
小山市立博物館報第12号 平成6年度版	同 上	〃
総社市埋蔵文化財発掘調査報告第14集	総社市教育委員会	〃
総社市埋蔵文化財調査年報5	同 上	〃
大阪府立近つ飛鳥博物館図録6	大阪府立近つ飛鳥博物館	〃
大阪府立近つ飛鳥博物館常設展示図録	同 上	〃
飛鳥資料館図録第28集	奈良国立文化財研究所飛鳥資料館	〃
埼玉県埋蔵文化財調査事業団年報15	半田堅三	〃
資料管理取扱要領 オンライン対応初版	同 上	〃
蕨市埋蔵文化財調査報告書第1集	法政大学文学部考古学研究室	〃
滋賀文化財だより4	財団法人滋賀県文化財保護協会	7.10.11
近江の文化財教室3	同 上	〃
国立歴史民俗博物館研究報告第60集	国立歴史民俗博物館	7.10.12
平成7年度特別展 魚と生きる 魚と日本人	千葉県立安房博物館	〃
展望考古学 考古学研究会40周年記念論集	大村 直	〃
静岡県考古学会シンポジウムⅧ 『古墳時代の集落』収録集	同 上	〃
のじぎく文化財だより第38号	財団法人のじぎく文化財保護研究財団	7.10.13
東京都埋蔵文化財センター調査報告第20・21集	財団法人東京都教育文化財団東京都埋蔵文化財センター	〃
開館20周年特別展展示解説書 鉄砲 歴史を変えた新兵器	千葉県立総南博物館	〃
住まいと集落	千葉県立房総風土記の丘	〃
平松遺跡	淡神文化財協会	〃
松山市文化財調査報告書第50集	財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター	7.10.16
長原・瓜破遺跡発掘調査報告Ⅵ～Ⅶ	財団法人大阪市文化財協会	〃
大分市歴史資料館年報1995	大分市歴史資料館	〃

書名	寄贈者	受入日
武蔵大学人文学会雑誌第27巻第1号	武蔵大学人文学会	7.10.16
平成7年度秋季特別展解説書 縄向型前方後円墳とそのひろがり 関東編	(財)桜井市文化財協会	7.10.23
社団法人石川県埋蔵文化財保存協会年報6	(財)石川県埋蔵文化財保存協会	"
仙台市文化財調査報告書第202集	仙台市教育委員会	"
文部省科学研究費補助金重点領域研究 遺跡探査No.15	奈良国立文化財研究所	"
ウォーク・イン古代2 市原市の遺跡	(財)千葉県文化財センター	7.10.25
平成4年度芦屋市立美術博物館年報	芦屋市立美術博物館	"
特別展 火炎土器図録	大田区立郷土博物館	"
第6回足もとに眠る歴史特別展 東海大学の考古学調査	東海大学校地内遺跡調査団	"
東邦考古第19号	東邦考古学研究会	"
浜松城のイメージ	浜松市博物館	"
武蔵台遺跡Ⅱ	府中病院内遺跡調査会	"
研究紀要第1号	(財)郡山市埋蔵文化財発掘調査事業団	7.10.30
南葛野遺跡	吉岡遺跡群発掘調査団	"
第15回特別展 霞ヶ浦 人と神と水と 湖のくらし	上高津貝塚ふるさと歴史の広場・土浦市立博物館	"
第19回特別展示図録 広重・英泉珠玉の名品による「中山道六十九次の旅」	大宮市立博物館	"
横須賀市埋蔵文化財調査報告書第5集	横須賀市教育委員会	7.11.1
特別展解説書 田所遺跡群と光明寺	一宮市博物館	7.11.2
柏市埋蔵文化財調査報告書30	柏市教育委員会	7.11.6
第13回 小さな展覧会 平成6年度京都府内遺跡発掘調査成果速報	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	7.11.8
京都府埋蔵文化財情報第57号	同上	"
特別展 ジャの道は蛇 薬蛇の祭と信仰	世田谷区立郷土資料館	"
調布読本 近代調布の歩み	調布市郷土博物館	"
京都府遺跡調査概報第66冊	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	7.11.10
京・兼倉出土の瀬戸焼	(財)瀬戸市埋蔵文化財センター	"
八王子市郷土資料館年報 平成6年度	八王子市郷土資料館	"
戦争と人びとのくらし	同上	"
日本考古学50年の足跡 第18回博物館公開講座・企画展資料集	明治大学考古学博物館	"
長岡京市埋蔵文化財センター年報 平成5年度	(財)長岡京市埋蔵文化財センター	7.11.16
シンポジウムよみがえる篠本城跡 戦国動乱期城郭の謎にせまる	(財)東総文化財センター	"
(財)東総文化財センター発掘調査報告書第5集	同上	"
金沢大学考古学紀要第22号	金沢大学文学部考古学研究室	"
港郷土資料館館報13 平成6年度版	港区教育委員会	"
平成7年度第2回企画展図録 縄文時代の枝と祈り 異形台付土器の世界	八千代市歴史民俗資料館	"
日立市郷土博物館閉館20周年記念誌	日立市郷土博物館	7.11.17
木曾森野遺跡Ⅲ 歴史時代編2	町田木曾森野地区遺跡調査会	7.11.21
高山歴史学研究所文化財調査報告書第4冊	高山歴史学研究所	7.11.22
PALINONo.2	パリノ・サーヴェイ株式会社	7.11.24
日本全国書誌1995-45No.2048	国立国会図書館	"
徳島県立埋蔵文化財総合センター (財)徳島県埋蔵文化財センター要覧	(財)徳島県埋蔵文化財センター	7.11.27
舘館記念シンポジウム 弥生の精華 銅鐸に迫る	同上	"
澁和の遺跡 写真で見る発掘調査の記録	浦和市遺跡調査会	"
浦和市遺跡調査会報告書第175・191・192・194・195・197・202集	同上	"
青森県埋蔵文化財調査報告書第160・168・172・175・176・178・181～184集	青森県埋蔵文化財調査センター	"
横須賀市博物館研究報告(人文科学)第39号	横須賀市自然博物館・横須賀市人文博物館	7.11.29
横須賀市博物館資料集第20号	同上	"
考古資料図録X	同上	"

書名	寄贈者	受入日
横須賀市博物館報第42号	横須賀市自然博物館・横須賀市人文博物館	7.11.29
長崎県文化財調査報告書第123集	長崎県教育委員会	〃
峯ヶ谷戸遺跡発掘調査報告書	玉川文化財研究所	7.11.30
札幌市文化財調査報告書46～49	札幌市教育委員会	〃
八王子市打越大畑遺跡調査報告書	八王子市教育委員会	7.12.1
のじぎく文化財だより第39号	(財)のじぎく文化財保護研究財団	7.12.4
宇治市埋蔵文化財発掘調査概報第21・26集	宇治市教育委員会	〃
宇治市文化財調査報告第4冊	同上	〃
千葉県指定有形文化財木造阿弥陀如来及び両脇侍像修理報告書	下総町教育委員会	〃
豊田市埋蔵文化財発掘調査報告書第1～4集	豊田市教育委員会	〃
福島県文化財調査報告書第310・312・315集	(財)福島県文化センター	7.12.7
原町火力発電所関連遺跡調査報告VI	同上	〃
相馬開発関連遺跡調査報告Ⅲ	同上	〃
埋蔵文化財調査室年報11 平成5年度	(財)北九州市教育文化事業団	〃
研究紀要第9号	同上	〃
北九州市埋蔵文化財調査報告書第143・151・152・160～180集	同上	〃
神戸市東灘区郡家遺跡	六甲山麓遺跡調査会	〃
のじぎく文化財だより第40号	(財)のじぎく文化財保護研究財団	7.12.12
研究輯録V	(財)広島県埋蔵文化財調査センター	〃
年報X 平成5年度	同上	〃
広島県埋蔵文化財調査センター調査報告書第131～136集	同上	〃
平成7年度冬季企画展解説書 纏向のマツリ	(財)桜井市文化財協会	〃
資料館報No.26	埼玉県立さきたま資料館	〃
平成4年度神戸市埋蔵文化財年報	神戸市教育委員会	〃
西求女塚古墳第5次・第7次発掘調査概報	同上	〃
地下に眠る神戸の歴史展X	同上	〃
青銅鏡 卑弥呼から浮世絵まで	同上	〃
上沢遺跡発掘調査報告書	同上	〃
静岡の原像をさぐる発掘調査報告会	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所	7.12.15
静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第45・57・60・64集	同上	〃
仙台市文化財調査報告書第204集	仙台市教育委員会	〃
東京都埋蔵文化財センター年報15	(財)東京都教育文化財団東京都埋蔵文化財センター	7.12.18
綾瀬市埋蔵文化財調査報告書4	綾瀬市教育委員会	〃
広島県立歴史博物館展示図録第15冊 茶・花・香 中世にうまれた生活文化	広島県立歴史博物館	〃
国立歴史民俗博物館研究年報3 1994年度	国立歴史民俗博物館	〃
千葉県立房総風土記の丘年報18	千葉県立房総風土記の丘	〃
多賀城市文化財調査報告書第37・38・40集	多賀城市埋蔵文化財調査センター	〃
鳥羽館跡遺跡	豊科町教育委員会	〃
上野忍岡遺跡(国立科学博物館たんけん館地点・屋外展示模型地点)発掘調査報告書	国立科学博物館上野地区埋蔵文化財発掘調査委員会・国立科学博物館	7.12.25
牟礼越遺跡	別府大学付属博物館	〃
別府大学付属博物館展示資料図録1995	同上	〃
松山市埋蔵文化財調査年報Ⅶ	(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター	8.1.9
松山市文化財調査報告書第48・51集	同上	〃
文部省科学研究費補助金重点領域研究 遺跡探査No.16	奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター	〃
溜ノ上遺跡	松戸市遺跡調査会	8.1.10
九州歴史資料館年報 平成6年度	九州歴史資料館	8.1.16
九州歴史資料館研究論集20	同上	〃

書名	寄贈者	受入日
糖アルコールを用いた水浸出土木製品の保存Ⅰ 糖類含浸法とPEG含浸法の比較研究	田中清美	8.1.17
1994年度発掘調査速報展 大和を掘る X V	同上	〃
中山大塚古墳発掘調査中間報告	同上	〃
斑鳩藤ノ木古墳第2・3次調査報告書	同上	〃
京都府埋蔵文化財情報第58号	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	8.1.22
四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第18冊	(財)香川県埋蔵文化財調査センター	〃
高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第5・6冊	同上	〃
寄居町文化財調査報告第13・14集	寄居町遺跡調査会	〃
寄居町遺跡調査会報告第1～4集	同上	〃
大和市文化財調査報告書第61集	大和市教育委員会	〃
野田市埋蔵文化財調査報告書第6・8～10冊	野田市教育委員会	〃
野田市文化財抄報10	同上	〃
のじぎく文化財だより第41号	(財)のじぎく文化財保護研究財団	8.1.24
鹿島町の文化財第62・65・74～77集	(財)鹿島市文化スポーツ振興事業団	〃
鹿島町内遺跡発掘調査報告 X IV・X V	同上	〃
鹿島町の文化財第85・88・89・91集	同上	〃
福島市埋蔵文化財報告書第44・66～82集	(財)福島市振興公社	8.1.25
堺市文化財地図	田所 真	8.1.26
のじぎく文化財だより第42号	(財)のじぎく文化財保護研究財団	8.2.1
開館20周年記念 朝日遺跡への招待	(財)愛知県埋蔵文化財センター	〃
10年のあゆみ (財)愛知県埋蔵文化財センター創立10周年記念誌	同上	〃
埋蔵文化財展 柳の御所遺跡発掘調査展 発掘された北の都	(財)岩手県文化振興事業団	〃
岐阜県文化財保護センター調査報告書第11・12・14集	(財)岐阜県文化財保護センター	〃
(財)君津郡市文化財センター発掘調査報告書第83・91・99・104～106集	(財)君津郡市文化財センター	〃
第2回遺跡発表会発表要旨 発掘されたきみさらづの昔	同上	〃
平成8年冬季企画展図録 発掘速報展大阪'96	(財)大阪府文化財調査研究センター	〃
福島県文化財調査報告書第316集	(財)福島県文化センター	〃
枚方市文化財年報15 1993年度分	(財)枚方市文化財研究調査会	〃
朝日遺跡Ⅱ	愛知県清洲貝殻山貝塚資料館	〃
企画展 幻の縄文土器の時代 都築区桜並遺跡の発掘調査の成果	横浜市歴史博物館	〃
平成7年度冬季企画展 古代の群像 俑と埴輪	大阪府立近つ飛鳥博物館	〃
武蔵大学人文学会雑誌第27巻第2号	武蔵大学人文学会	〃
豊橋市埋蔵文化財調査報告書第19集	豊橋市教育委員会	〃
眠りからさめた古代 第一東海自動車道遺跡発掘調査成果展	(財)かながわ考古学財団	8.2.5
謎の敷石住居 展示図録	神奈川県立埋蔵文化財センター	〃
かながわの考古学第5集	同上	〃
大津市文化財調査報告書24	大津市教育委員会	〃
のじぎく文化財だより第43号	(財)のじぎく文化財保護研究財団	8.2.16
京都市埋蔵文化財研究所調査報告第13冊	(財)京都市埋蔵文化財研究所	〃
川辺遺跡発掘調査報告書	(財)和歌山県文化財センター	〃
西庄遺跡発掘調査Ⅰ	同上	〃
根来寺坊院跡	同上	〃
学術調査研究第5集 蕪木5号古墳	山武考古学研究所	〃
図録 戦後50年終戦から平和へ	成田市霊光館	〃
津屋崎町文化財調査報告書第6・8～10集	津屋崎町教育委員会	〃
久留米市文化財調査報告書第80・85～100・102集	久留米市教育委員会	8.2.19
東京博物館所蔵 須恵器集成Ⅰ 近畿篇	東京国立博物館	〃

書名	寄贈者	受入日
奈良国立文化財研究所学報第54冊	奈良国立文化財研究所	8. 2. 19
長野県立歴史館常設展示図録	長野県立歴史館	8. 2. 23
長野県立歴史館展示資料目録	同上	〃
長野県立歴史館研究紀要第1号	同上	〃
京都府遺跡調査概報第67冊	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	8. 2. 26
千葉県文化財センター年報No.20 平成6年度	(財)千葉県文化財センター	〃
千葉県文化財センター調査報告第241・260~268・273・274・275集	同上	〃
長生郡市文化財センター年報No.9 平成5年度・6年度	(財)長生郡市文化財センター	〃
千葉県重要古墳群測量調査報告書 市原市菊間古墳群	千葉県教育庁生涯学習部文化課	〃
千葉県中近世城跡研究調査報告書第15集	同上	〃
千葉県所在中近世城館跡詳細分布調査報告書Ⅰ	同上	〃
千葉県埋蔵文化財発掘調査抄報平成5年度	同上	〃
千葉県記念物実態調査報告書Ⅲ	同上	〃
市原市永田窯跡群第2次発掘調査報告書	同上	〃
流山市上新宿貝塚発掘調査報告書	同上	〃
山武町胡摩手台16号墳発掘調査報告書	同上	〃
史叢第54・55合併号	日本大学史学会	〃
八千代市歴史民俗資料館年報 平成6年度	八千代市歴史民俗資料館	〃
(財)印旛郡市文化財センター発掘調査報告書第71・74・91・98・104・107	(財)印旛郡市文化財センター	8. 2. 28
文部省科学研究費補助金重点領域研究遺跡探査 第4回研究成果検討会議論文集	遺跡探査事務局	〃
企画展 考古学トイレ考図録	大田区立郷土博物館	〃
第14回特別展 城のある風景 豊後府内城	大分市歴史資料館	〃
府内及び大友氏関係遺跡総合調査研究年報Ⅲ	同上	〃
草戸千軒町遺跡発掘調査報告Ⅳ	広島県草戸千軒町遺跡調査研究所	8. 3. 1
国府台6	和洋女子大学文化資料館	〃
土地改良総合整備関連遺跡発掘調査報告書Ⅰ1	(財)滋賀県文化財保護協会	8. 3. 4
ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書XXⅡ3・XX4	同上	〃
県宮かんがい排水事業関連遺跡発掘調査報告書Ⅸ4	同上	〃
25年のねんりん	同上	〃
大通寺古墳群	同上	〃
湯ノ部遺跡発掘調査報告書Ⅰ	同上	〃
大阪府下埋蔵文化財研究会(第33回)資料	(財)大阪府文化財調査研究センター	〃
平成8年冬季企画展発掘速報大阪% 見えた! 弥生のムラ・墓・水田 調査成果報告会資料	同上	〃
平成7年度企画展 喜多見の遺跡	世田谷区立郷土博物館	〃
武蔵国分寺跡西方地区 武蔵台遺跡Ⅲ	府中病院内遺跡調査会	〃
国立歴史民俗博物館研究報告第64集	国立歴史民俗博物館	8. 3. 8
千葉県山武郡山武町森台遺跡群の調査第2次	青山学院大学文学部考古学資料室	8. 3. 11
栃木県埋蔵文化財調査報告第115・126・137・152・160・182集	栃木県教育委員会	〃
のじぎく文化財だより第45号	(財)のじぎく文化保護研究財団	8. 3. 12
平成7年度千葉県遺跡発表会要旨	(財)千葉県文化財調査協会	〃
図録 イヨッ!!成田屋 市川団十郎	成田山霊光館	8. 3. 15
東金市内遺跡発掘調査報告書 山田新田Ⅱ遺跡	東金市教育委員会	8. 3. 25
地下室の開発と保全	佐野年男	8. 3. 28
市職労25年史	同上	〃

市原市文化財センター年報

(平成7年度)

平成10年3月31日 発行

発行 財団法人 市原市文化財センター
〒290-0011 千葉県市原市能満1489番地
TEL 0436(41)9000

印刷 三陽工業株式会社
〒290-0056 千葉県市原市五井5510の1
TEL 0436(22)4348